

「令和7年度全国学力・学習状況調査」の
結果について

令和7年8月28日（木）

富山市教育委員会

目 次

I	本調査の目的	1
II	実施状況	1
III	教科に関する結果の概況	
1	教科区分別平均正答率（％）・平均 IRT スコア	1
2	結果の概要	1
IV	本調査結果の考察	
1	教科に関する調査の結果から	
(1)	小学校国語	2
(2)	小学校算数	6
(3)	小学校理科	10
(4)	中学校国語	14
(5)	中学校数学	18
(6)	中学校理科	22
2	児童生徒質問調査の結果から	26
3	学校質問調査の結果から	28
V	今後の取り組み	
1	調査結果の取り扱い	30
2	教科に関する調査と児童生徒質問調査及び 学校質問調査の関連	30
3	授業改善に向けた指導の重点	34

「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果概況について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 冊子を用いた筆記方式 令和7年4月17日(木)
MEXCBTを用いたオンライン方式(中学校理科)
令和7年4月14日(月)～17日(木)のうち、
あらかじめ指定された1日
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学、理科
質問調査 児童生徒、学校

3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
63校1分校	2,943人	25校1分校	2,921人

III 教科に関する結果の概況

1 教科区分別平均正答率(%)・平均IRTスコア

	平均正答率（％）					平均IRTスコア
	小学校 6 年			中学校 3 年		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
富山市	69	60	61	55	51	515～545未満
富山県	69	61	62	56	51	515～
全 国	67	58	57	54	48	503

※ 中学校理科…ICT端末を用いたオンライン方式CBTで実施し、その調査結果については平均スコアを500としたIRTスコアで表示

2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語、算数は2ポイント上回っており、理科は4ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は1ポイント、数学は3ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校では国語は同等であり、算数、理科はともに1ポイント下回っている。中学校では国語は1ポイント下回っており、数学は同等である。理科の平均IRTスコアも同等である。

IV 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

(1) 小学校国語

<集計結果>

- ・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

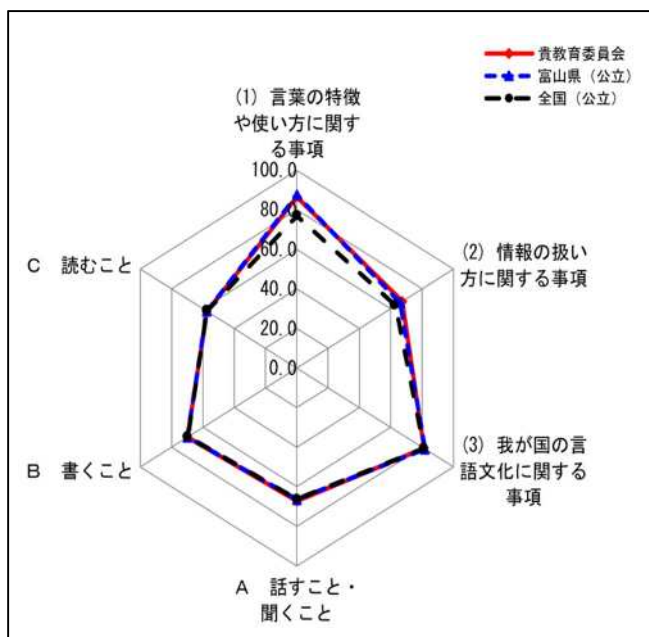
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	69	69	66.8

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
				富山市		富山県	全国
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	○	86.4	87.4	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	◎	67.4	66.1	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	○	81.2	82.0	81.2
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	◎	67.2	66.5	66.3
		B 書くこと	3	◎	69.9	69.9	69.5
		C 読むこと	4	▲	57.3	57.5	57.5
評価の観点		知識・技能	4	○	80.4	80.8	74.5
		思考・判断・表現	10	◎	64.0	63.9	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式		選択式	9	◎	65.6	65.0	64.7
		短答式	3	○	85.5	86.3	78.5
		記述式	2	▲	57.6	59.2	58.8

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 平均正答率を全国と比較すると、2. 2ポイント上回っている。
- 内容の「思考力、判断力、表現力等」では、「話すこと・聞くこと」において、全国より0. 9ポイント、県より0. 7ポイント上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率では、思考・判断・表現で全国より0. 2ポイント、県より0. 1ポイント上回っている。
- 内容の「思考力、判断力、表現力等」では、「読むこと」において、全国及び県より0. 2ポイント下回っている。問題形式においては、「記述式」の問題の平均正答率は、全国より1. 2ポイント、県より1. 6ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「情報の扱い方に関する事項」の「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題」では、正答率は67.4%であるものの、全国を4.3ポイント上回った。話をまとめた記録の書き表しから、情報や語句の関係付けの仕方をとらえ、内容が整理されていることを理解していると考えられる。(問題1二)
- 区分「書くこと」の「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」では、正答率は82.9%で、全国を1.1ポイント上回った。内容について読み手がよく理解できるように、言葉だけでなく図を用いて書き表し方を工夫している理由をとらえることができたと考えられる。(問題2二)
- 区分「読むこと」の「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえることができるかどうかをみる問題」の正答率は83.7%で、全国を2.1ポイント上回った。内容の大体をとらえるために、説明の順序を考えながら文章の構造を大づかみにとらえ、それを手掛かりに内容を理解している。(問題3二(1))
- 区分「書くこと」の「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題」では、正答率が64.0%で、全国を1.5ポイント下回った。無解答率は全国や富山県と比べて高かった。相手意識と目的意識をもち、伝えたいことの中心を明らかにして、内容のまとまりごとに分けて書いたり、段落のつながりを見直しながらその関係を考えたりする学習活動を取り入れていきたい。(問題2一)
- 区分「読むこと」の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は39.5%で、全国を1.3ポイント下回った。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが重要である。目的に応じて、文章や図表等の関係を考えながら、必要な情報を探し出す学習活動を取り入れていきたい。(問題3三(1))
- 区分「読むこと」の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は52.4%と全問題の中で2番目に低く、全国を3.9ポイント、県を2.4ポイント下回った。記述式の問題形式で、本調査で最も無解答率が高く、19.7%だった。必要な情報を見付けるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択し、整理したり再構成したりすることが重要である。資料から言葉や文を取り上げ、別の資料との関係を視覚的に明らかにしながらから読む学習経験を重ねていきたい。(問題3三(2))P4・5参照

(2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

--	--	--	--

(●問題3三(2) 正答率 52.4% 無解答率 19.7%)

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

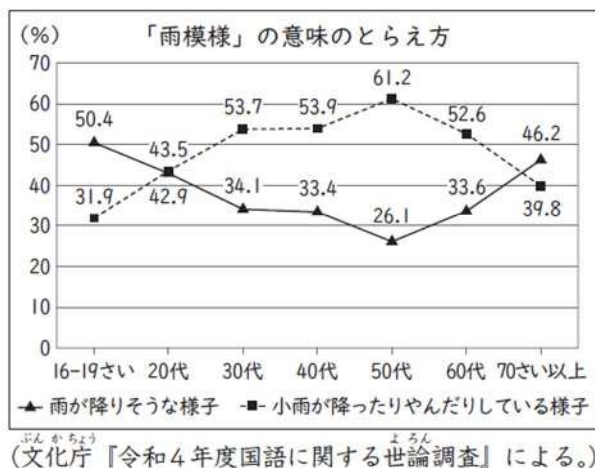
【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料（【資料2】、【資料3】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。



木村さん

【資料4】



私は、この資料（【資料4】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがあることが分かるでしょ。



田中さん

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。



木村さん

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。



田中さん

言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。

もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。



木村さん

(2) 小学校算数

<集計結果>

- ・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

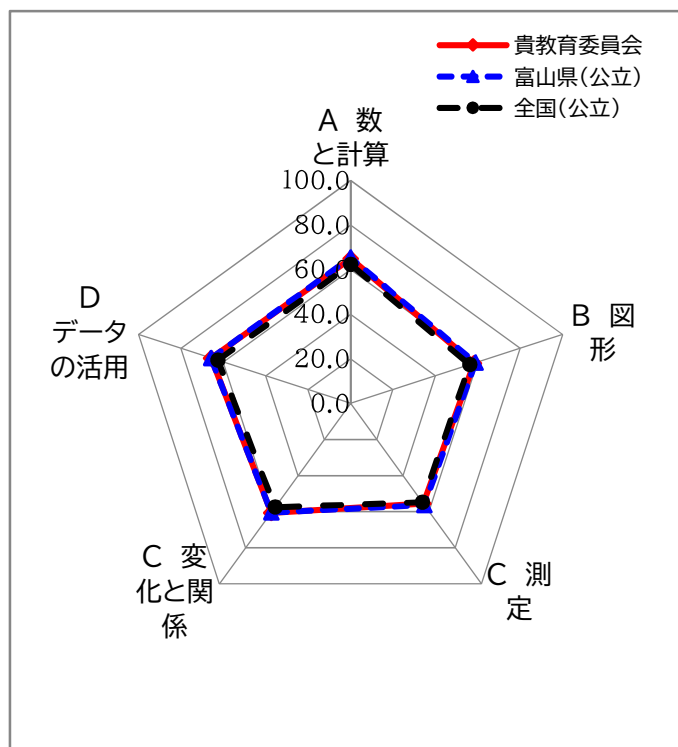
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	60	61	58.0

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領 の領域	A 数と計算	8	○ 64.9	65.4	62.3	
	B 図形	4	○ 58.2	58.9	56.2	
	C 測定	2	○ 55.5	56.3	54.8	
	C 変化と関係	3	◎ 60.6	60.5	57.5	
	D データの活用	5	○ 65.7	65.8	62.6	
評価の観点	知識・技能	9	○ 67.7	68.6	65.5	
	思考・判断・表現	7	◎ 51.1	50.8	48.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	○ 69.3	69.5	67.2	
	短答式	6	○ 66.9	67.8	64.0	
	記述式	4	◎ 37.5	37.2	34.9	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 領域ごとの平均正答率は、「A 数と計算」で2.6ポイント、「C 変化と関係」は3.1ポイント、「D データの活用」も3.1ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率は、「思考・判断・表現」で2.8ポイント全国を上回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率は、「選択式」が2.1ポイント、「短答式」が2.9ポイント、「記述式」が2.6ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率において、「知識・技能」が0.9ポイント県を下回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率において「記述式」が37.5%であり、50%に満たない。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「データの活用」は、平均正答率が65.7%と4つの区分の中で最も高い。「棒グラフから項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は83.5%であり、グラフを読み取り、目的に応じてデータの特徴や傾向をとらえる力が身についている。
(問題1(1))
- 区分「数と計算」の「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は85.4%であり、全国を4.1ポイント上回った。異分母の分数の加法の計算方法を理解し、計算・処理することができている。
(問題3(4))
- 区分「変化と関係」の「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる問題」では、平均正答率が85.3%であり、全国を2.5ポイント上回った。日常生活において、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して、問題解決の見通しをもつ力が育っている。
(問題4(1))
- 区分「データの活用」の「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」では、平均正答率が33.6%であった。どちらが目的に応じたグラフという判断はできるが、その理由を説明する力が不十分であることがうかがえる。「理由」を記述する問題では、理由として、取り上げるべき事柄が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述することが必要である。普段の授業から、考えの根拠を説明するなどの言語活動の充実が求められる。
(問題1(2))P8・9参照
- 区分「数と計算」の「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを、数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」では、平均正答率が、23.3%であり、全ての問題の中で最も低い。通分について記述している解答が多く、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて表現することができていなかった。形式的な計算方法のみの理解にとどまらず、自らの計算方法を説明するなどの数学的活動の充実が求められる。
(問題3(2))

- (2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量しゅつ か りょうが、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

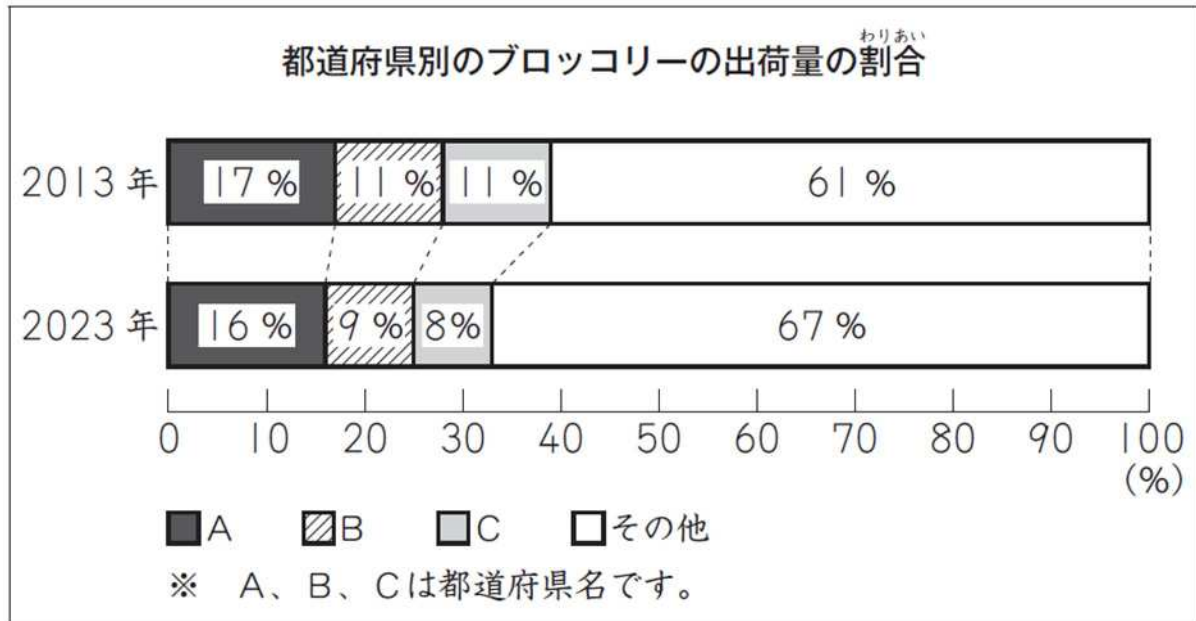
2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下の **ア** と **イ** から選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

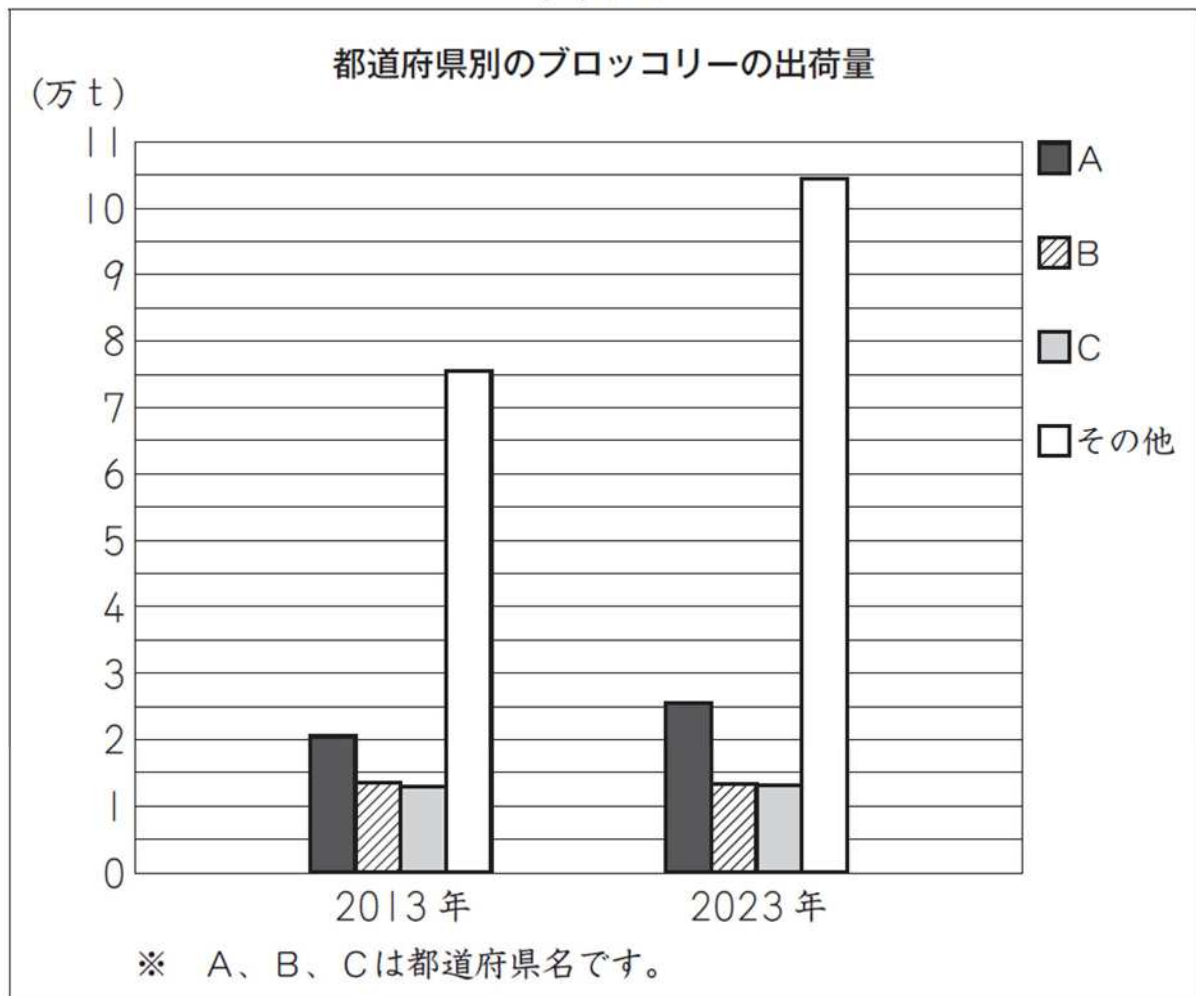
イ 2023年は2013年より減った。

グラフ2



(作物統計調査による。)

グラフ3



(作物統計調査による。)

(● 問題1(2) 正答率 33.6%)

(3) 小学校理科

<集計結果>

- ・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

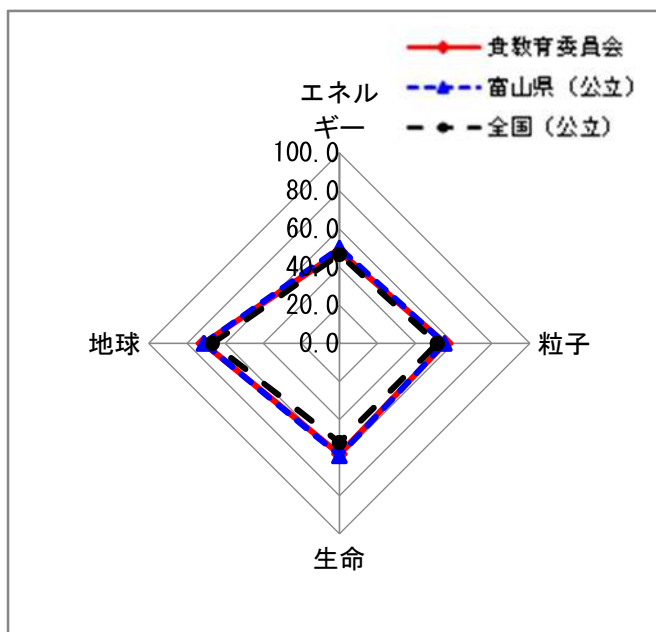
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	61	62	57.1

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
				富山市	富山県	全国
学習指導要領 の領域	A エネルギー	4	○	48.1	50.0	46.7
	B 粒子	6	◎	55.5	55.1	51.4
	C 生命	4	○	58.1	58.9	52.0
	D 地球	6	◎	71.2	71.1	66.7
評価の観点	知識・技能	8	○	58.3	59.4	55.3
	思考・判断・表現	9	○	63.5	63.6	58.7
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	○	58.6	58.8	54.7
	短答式	4	○	72.8	74.1	69.7
	記述式	2	○	51.4	52.0	45.2

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、3.9ポイント上回っている。また、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「生命」で6.1ポイント、「地球」で4.5ポイント全国を上回っている。
- 「記述式」の平均正答率は、51.4%と全国を6.2ポイント上回っている。
- 「選択式」は3.9ポイント、「短答式」は3.1ポイント全国を上回っているものの、「記述式」と比べて差は小さい。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

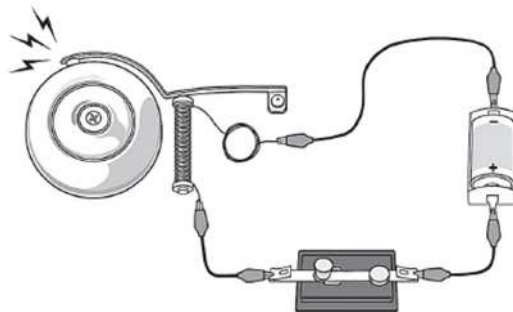
- 区分「地球」の平均正答率が71.2%と4つの区分の中では最も高い。「水の蒸発について、概念的に理解しているかどうかをみる問題」では、正答率が70%であり、全国を5.8ポイント上回った。水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化することを正しく理解し、自然の事物・現象と知識を関連づけて考える力が身についている。(問題4(2))
- 区分「生命」の発芽するために必要な条件について、「実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかをみる問題」では、正答率が72.6%であり、全国を10.6ポイント上回った。条件を制御した実験方法の立案について確認する場面の設定が今後も大切である。(問題3(3))
- 区分「エネルギー」「粒子」の、身の回りの金属について「電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についているかどうかをみる問題」では、正答率は12.7%と全ての問題の中で最も低い。誤答のうち、アルミニウム、鉄、銅のいずれかが電気を通さないととらえている児童の割合が76.9%となっている。金属の特徴を整理する場面をつくることで知識の定着を図ったり、既習の内容と生活経験とを関連づけてとらえることで実感を伴った理解を深めたりするなど、学習過程を工夫することが大切である。(問題2(1)) P12・13 参照
- 区分「エネルギー」の電気の回路のつくり方について、「実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題」では、正答率は44.4%と低かった。複数の回路の中で、電気を通す物を選択する問題であったが、電気を通さない部分が回路の一部に含まれている回路を選択した誤答が30.5%であった。電気を通すものと通さないものの知識を活用して実験の方法を発想し、表現する学習活動の充実が求められる。(問題2(2)) P12・13 参照
- 問題形式の中で「記述式」の2つの問題は、無解答率がいずれも7%以上であった。中でも、区分「生命」の種子の発芽の条件について、「差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題」では、全国を7.8ポイント上回ったが、正答率は、37.7%と低かった。条件から、日光または肥料について選んで記述することはできているが、発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述されていない解答が28.7%に及んだ。自然の事物・現象について観察や実験等を行う中で、問題を見だし、適切な言葉を用いて表現する学習場面の工夫が求められる。(問題3(4))

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の **1** から **4** までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

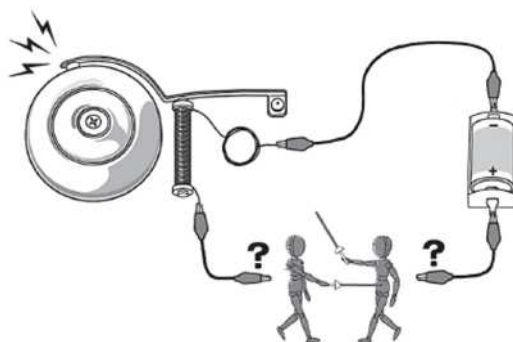
- 1** 電気を通し、磁石^{じしゃく}に引きつけられる。
- 2** 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3** 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4** 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

いおりさんは、かね（ベル）が鳴るしくみについて考えています。

スイッチを入れると、
かね（ベル）が鳴るしくみ
になっているね。

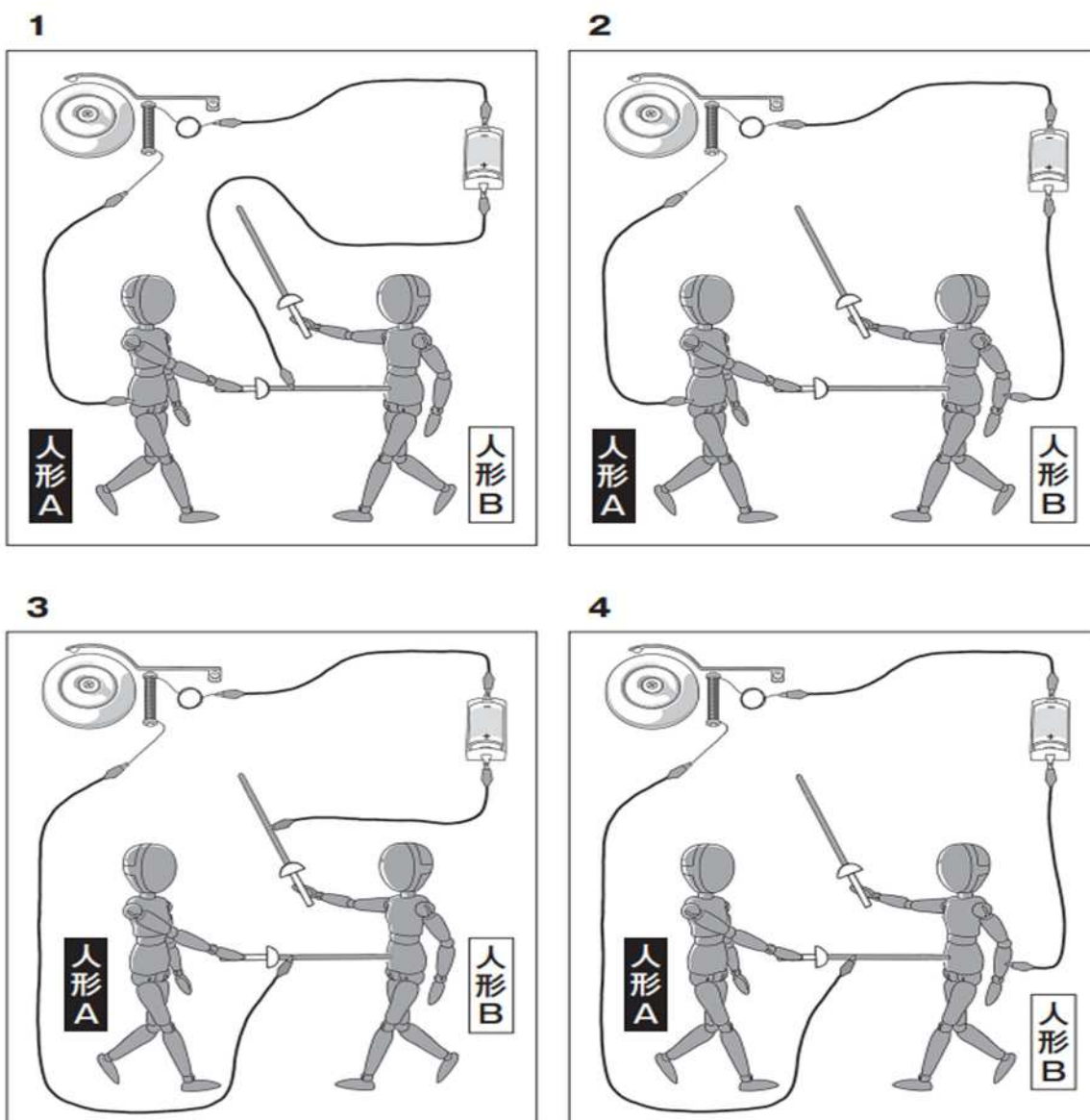
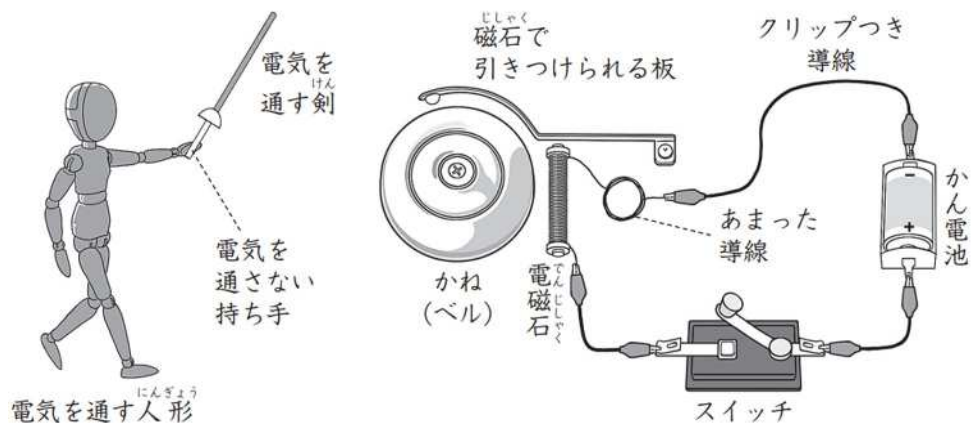


スイッチを人形^{にんぎょう}に置きかえ、
人形^{にんぎょう}に剣^{けん}を当てたときだけ、
かね（ベル）が鳴るようにしたい。



(●問題2(1) 正答率12.7%)

(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、
 どのような回路でしょうか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、
 その番号を書きましょう。



(●問題2(2) 正答率44.4%)

(3) 中学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

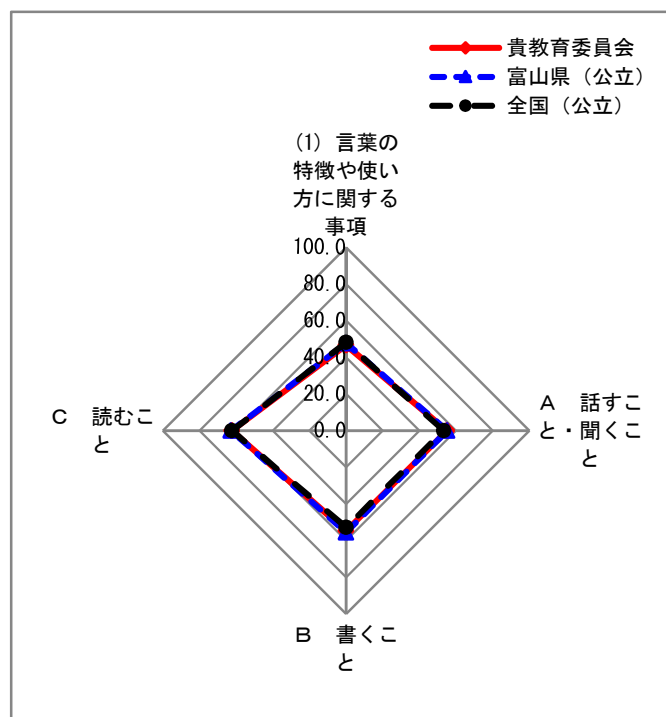
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	55	56	54.3

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
				富山市	富山県	全国	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	▲	46.6	47.7	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	○	55.0	55.2	53.2
		B 書くこと	5	○	54.7	55.5	52.8
		C 読むこと	3	○	62.4	62.8	62.3
評価の観点		知識・技能	2	▲	46.6	47.7	48.1
		思考・判断・表現	12	○	56.7	57.2	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式		選択式	8	○	64.8	65.0	63.9
		短答式	2	○	76.1	77.7	73.6
		記述式	4	○	25.9	26.6	25.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 平均正答率を全国と比較すると0.7ポイント上回っている。
- 領域別平均正答率を見ると、「A 話すこと・聞くこと」において1.8ポイント、「B 書くこと」において1.9ポイント全国を上回っている。
- 問題形式別平均正答率を見ると、短答式の問題形式において、2.5ポイント全国を上回っている。
- 平均正答率を県と比較すると、すべての領域、評価の観点で下回っている。
- 知識及び技能「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」において、平均正答率が46.6%となっており、全国を1.5ポイント、県を1.1ポイント下回っている。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 区分「話すこと・聞くこと」の「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は41.2%であるが、全国を3.1ポイント、県を0.8ポイント上回っている。授業で取り組んできたプレゼンテーションソフトを活用した発表やスピーチの経験を生かし、スライドを提示した話し手の意図を理解したうえで、話し方の工夫を考えたことがうかがえる。今後も継続して、ねらいを明確にした言語活動を行うことが大切である。(問題2一)
- 区分「読むこと」の「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方をとらえることができるかどうかをみる問題」では、平均正答率が89.9%と全問題で最も高い。文章中に人物像を表す語句があることから、その語句を抜き出す形で解答した結果だと予想されるが、文学的な文章を扱う授業において人物像をとらえる学習課題を設定し、学習することの積み重ねにより、人物像や人物の相互関係を分析する力が身につけていると考えられる。(問題3二)
- 区分「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」の「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題」の平均正答率は57.0%であり、全国を4.0ポイント、県を1.5ポイント下回っている。解答類型を見ると、28.0%が「注意深く」を選択しており、文脈から意味を理解しようとしたことがうかがえる。生徒が生活の中で獲得する言葉は限られており、語彙を増やしたり使いこなしたりできるようにするという重要な役割を担っているのが、国語科である。書かれた時代やジャンルを問わず様々な文章に触れる機会や、理解した語彙を活用したくなるような表現の場を設定することが求められる。(問題3三) P16・17 参照
- 区分「読むこと」の「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題」の平均正答率は16.4%と全問題の中で最も低く、全国を0.7ポイント、県を0.6ポイント下回っている。また、無解答率が29.6%と最も高い。解答類型を見ると、35.0%が文章の展開を踏まえずに記述した誤答が多いことが分かる。文学的な文章の授業は、内容の把握に偏りがちであるが、第3学年「C読むこと」の指導事項には、「ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する」とある。その力をつけるためには、第1学年から文章全体の特徴をとらえたり、展開や構成の効果について考えたりする学習を系統立てて行う必要がある。その際は、自分の考えを根拠をもとに記述する機会を積極的に設けることが重要である。読み手を意識して、言葉を選んだり、構成を考えたりするなど、試行錯誤しながら表現する経験こそが生徒の確実な力となる。(問題3四) P16・17 参照

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

二 ―線部①「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれていますか。「一 榎木の実」と「二 釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい。

三 ―線部②「しきりと」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 寂しげに
- 2 改めて
- 3 何度も
- 4 注意深く

四 ―で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のとくに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

3

次の文章は、島崎藤村しまざきとうむらが書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、えのき「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(島崎藤村「二人の兄弟」による。)

一 「一 榎木の実」の~~~~線部が、物語の始めに示されていることによる効果を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 語り手が読者に、榎木の実に関する経験を問うことによって、二人の兄弟の相互関係に関心をもたせる効果。
- 2 語り手が読者に、榎木の実に関する経験を問うことによって、榎木の実にまつわる物語に関心をもたせる効果。
- 3 語り手が読者に、兄弟や家族との関係を問うことによって、二人の兄弟の相互関係に関心をもたせる効果。
- 4 語り手が読者に、兄弟や家族との関係を問うことによって、榎木の実にまつわる物語に関心をもたせる効果。

(●問題3三 正答率 57.0%)

(●問題3四 正答率 16.4% 無解答率 29.6%)

(5) 中学校数学

<集計結果>

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

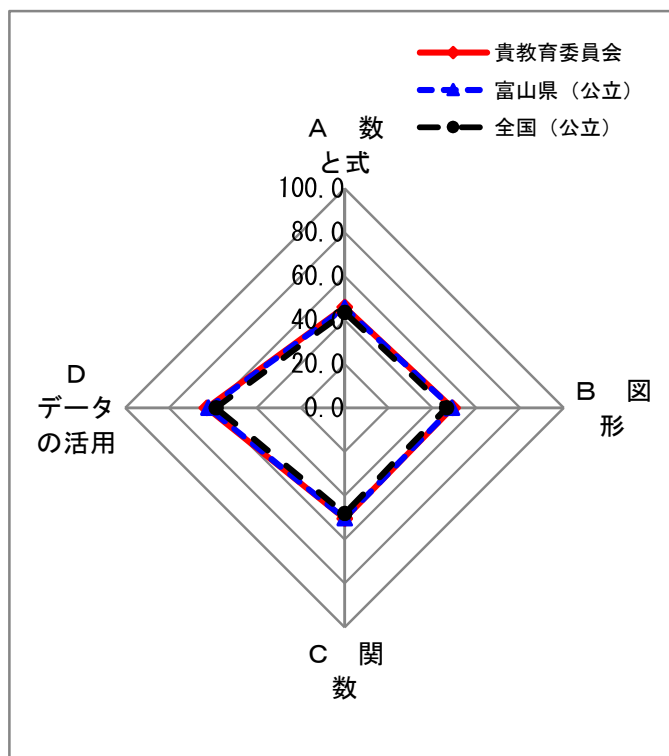
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	51	51	48.3

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
				富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	5	◎	45.9	45.6	43.5
	B 図形	4	◎	49.2	49.0	46.5
	C 関数	3	◎	50.5	50.4	48.2
	D データの活用	3	◎	62.8	62.1	58.6
評価の観点	知識・技能	9	◎	57.3	56.7	54.4
	思考・判断・表現	6	◎	41.7	41.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	3	◎	56.0	54.6	54.0
	短答式	7	◎	55.6	55.3	52.0
	記述式	5	○	41.7	42.0	39.6

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 平均正答率を全国と比較すると、2.7ポイント上回っており、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「D データの活用」で4.2ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率は、「知識・技能」で2.9ポイント、「思考・判断・表現」で2.6ポイント全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は「A 数と式」で45.9%、「B 図形」で49.2%であり、50%に満たない。
- 評価の観点「思考・判断・表現」の平均正答率は41.7%であり、50%に満たない。
- 問題形式のうち、「記述式」の問題の平均正答率は、41.7%であり、50%に満たない。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「D データの活用」の平均正答率が62.8%と4つの区分の中では最も高い。相対度数の意味や求め方等の基本的な知識及び技能が身につけている。また、不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する場面において、同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し、表現する力が身につけている。
- 区分「C 関数」の「一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる」問題の正答率は40.3%で50%に満たないものの、全国よりも5.6ポイント上回った。変化の割合とは x の増加量が1のときの y の増加量を意味していることに触れるなどし、 y の値と y の増加量が異なることを理解できるようにしていくことが大切である。(問題4)
- 区分「B 図形」の「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる」問題では、エを選択し $AD + DF = BC + BE$ と記述した生徒は41.6%で、全国と比較して正答率は高かった。また、正しく記述していないがエを選択した生徒を含めると58.6%だった。証明の方法の理解を深めるためには、図形のある性質について、推論の過程が異なる2つの証明を読んで、その相違点を見つけたり、推論の過程に誤りのある証明を読んでそれを指摘し改めたりするなど、証明を評価、改善する学習活動を取り入れることが有効である。(問題9(2))
- 問題形式の中で「記述式」の5つの問題のうち4つは、無解答率が20%以上と高く、記述式の問題に対する苦手意識がみられる。問題解決的な学習や実生活における数学的な課題を取り入れ、小グループによる話し合いの場等で筋道を立てて考えたり自分の言葉で説明したりする学習活動を積極的に行うことが、論理的に考える力や表現する力を育成することにつながる。
- 区分「A 数と式」の「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は29.8%であり、全ての問題の中で最も低い。また、無解答率は24.5%と高い。誤答の多くが、 $2(3n+1)+1$ からは読み取れないが、連続する2つの3の倍数の和について成り立つ事柄を記述したものだ。数の性質の探究では、生徒が性質の条件や結論を的確にとらえているかどうか大切である。そのために、見いだした性質を言語化する学習活動を取り入れたい。言葉で表現することで、条件や結論をいっそう意識する機会となり、漠然ととらえていた条件や結論が明確になる。また、数を用いた例を多く取り入れることも、生徒が数の性質の条件や結論を的確にとらえる力を養う上で効果的である。(問題6(2))P20・21 参照
- 区分「B 図形」の「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、全国よりも2.5ポイント下回った。310°と解答した生徒が3割近くに及ぶことから、外角の位置の認識を誤っていることが要因として考えられる。内角と外角の和が180°になることを図で示すなどしながら、外角の定義について生徒自身が確認できる場をもつことを大切にしたい。(問題3)

- 6** 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3、6 \text{ のとき} & 3 + 6 = 9 \\ 12、15 \text{ のとき} & 12 + 15 = 27 \\ 30、33 \text{ のとき} & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 結菜さんは、これらの計算の結果から、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」と予想しました。

しかし、この予想は成り立ちません。この予想が成り立たないことを下のように説明します。下の **①** から **③** までに当てはまる整数をそれぞれ書き、説明1を完成しなさい。

説明 1

連続する2つの3の倍数が、例えば、**①**、**②** のとき、**①** + **②** を計算すると、和は **③** となり、9の倍数ではない。

したがって、「連続する2つの3の倍数の和は、いつでも9の倍数になる」という予想は成り立たない。

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n+1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n+1)+1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。

(●設問6(2) 正答率29.8%、無解答率24.5%)

(6) 中学校理科

<CBT 問題の構成について>

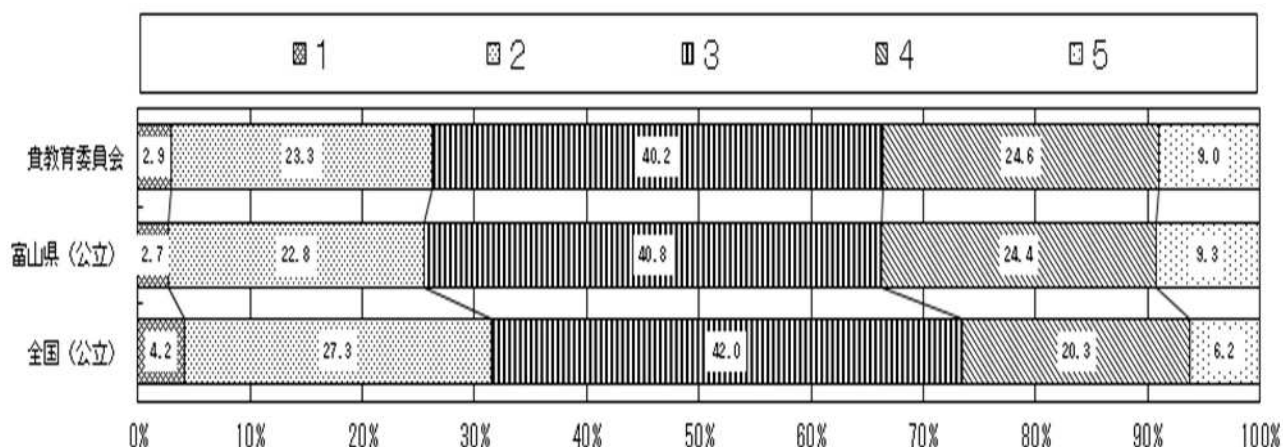
- ・公開問題「全日程に共通する問題（6問）」＋「実施日により異なる問題（4問）」と非公開問題（16問）を組み合わせた合計26問で構成されている。

<集計結果>

- ・以下の集計値は、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。
- ・ICT 端末を用いたオンライン方式 CBT で実施しており、その調査結果については、平均スコアを 500 とした IRT スコア（児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論）で表示している。

平均 IRT スコア	富山市	富山県	全国
	515～545 未満	515～	503

<IRT バンド分布比較> ※IRT バンドとは、IRT スコアを 1～5 段階に区切ったもの。
3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。



<結果の概要>

- IRT バンド分布を全国と比較すると、バンド4、5に属する生徒の割合が高い。

凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	1	◎	53.8	53.2	51.9
	「粒子」を柱とする領域	3	○	62.1	62.5	56.8
	「生命」を柱とする領域	1	◎	30.7	29.4	29.7
	「地球」を柱とする領域	1	○	36.7	37.4	36.2
評価の観点	知識・技能	3	◎	44.7	44.3	42.2
	思考・判断・表現	3	○	57.8	58.2	53.9
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	3	◎	40.4	40.0	39.3
	短答式	1	○	49.7	50.2	44.9
	記述式	2	○	68.3	68.7	62.8

※提供された「全日程に共通する問題」の平均正答率から、「学習指導要領の領域」、「評価の観点」、「問題形式」の平均正答率をそれぞれ算出している。

<結果の概要>

- 全ての領域、評価の観点、問題形式において、平均正答率が全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「エネルギー」を柱とする領域で1.9ポイント、「生命」を柱とする領域で1.0ポイント全国を上回っており、この2領域については県を上回っている。
- 富山県の平均正答率と比較すると、「粒子」を柱とする領域において0.4ポイント、「地球」を柱とする領域において0.7ポイント下回っている。また、問題形式においても、短答式及び記述式ともに県を下回っている。

※上記の「学習指導要領の領域」、「評価の観点」、「問題形式」に関する概要については、全日程に共通する問題について記載している。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「エネルギー」を柱とする領域の「回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身についているかどうかをみる問題」の平均正答率は53.8%で、全国を1.9ポイント上回っている。抵抗を直列・並列それぞれにつないだ場合の抵抗の値や発熱量に関する知識については、半数以上の生徒は身につけているが、学んだ知識及び技能を様々な場面で応用し、活用できるような授業の展開を工夫していく必要がある。
共通問題(設問1(1))
- 区分「生命」を柱とする領域の「生命を維持する働きに関する知識が概念として身についているかどうかをみる問題」は、平均正答率が30.7%で、全国を1.0ポイント上回っている。しかし、すべての生物が呼吸を行うことを理解し、生命を維持する働きに関する知識が概念として身につくよう、生物の共通性・多様性を意識し、生物を分類したり、まとめたりする授業展開を工夫したい。
共通問題(設問1(4))
- 区分「地球」を柱とする領域の「学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連づけて分析し、解釈できるかどうかをみる問題」は、平均正答率が36.7%で、全国を0.5ポイント上回っているものの、県を0.7ポイント下回っている。地層1～4を構成する粒の大きさやすき間の情報から、水が通り抜けるかどうかは小学校で学習した知識を基に考えることができる。小学校での学びを活用し、学びの連続性を意識した授業を考えていきたい。
共通問題(設問1(3))
- 区分「粒子」を柱とする領域の「元素を記号であらわすことに関する知識及び技能が身についているかどうかをみる問題」は、平均正答率49.7%で、全国を4.8ポイント上回っているが、正答率が高いとは言えない。今後も授業を構想する際に、正しい知識を身につける場面と、知識を活用して考える場面を整理し、基本的な知識が確実に身につくよう意識することが大切である。
共通問題(設問1(5))
- 問題形式が「記述式」の平均正答率は68.3%で、全国を5.5ポイント上回っている。一方、無解答率は選択式が0.2%、短答式が7.2%(設問1(5))、記述式は6.7%で、選択式と比較すると記述式は6.5ポイント下回っている。設問1(2)は課題を設定する場面、設問1(6)は探究を振り返る場面であることを踏まえると、日頃の学習で探究のサイクルを回していく経験を積み重ねることが重要となってくる。まずは、教材づくりや導入を工夫し、そこから生まれた子どもたちの疑問や発想を生かした課題づくりの場を設定する。その際、理科の見方や考え方を働かせるための視点を提示し、課題に対する予想と解決のための方法を考える時間を十分に確保することが重要である。そして、ICTを活用した実験データの分析等を行って検証し、実験の考察をより確かなものにするための追加実験、新たな課題についてさらに探究する等、子どもたちの追究する力を育む学びの場づくりが期待される。
共通問題(設問1(2, 6))P24・25参照

課題を設定する

Aさん

【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？

Aさん

課題は、
() にしようと思います。

(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

課題

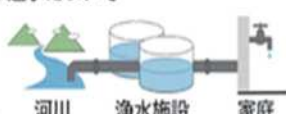
--

(●「記述式」設問1(2) 無解答率5.8%)

探究を振り返る

水道水、精製水について探究したことを発表しています。

水道水について



- ・河川の水などを顕微鏡で観察すると、いろいろな生物がいるので、安全に飲むための工夫をしている。
- ・河川の水などを浄水施設でろ過し、塩素を注入したものを水道水として利用している。

精製水について



- ・理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりしてつくられ、販売されている。
- ・精製水とミネラルウォーターとの違いは何かを現在調べている。

探究を通じて、さらに疑問に感じたことに着目して振り返ります。

…水について、…ということが分かり、…についてさらに疑問を感じたので…

Bさん

探究を通じて、はじめの考えから考えが変化したことに着目して振り返ります。

最初は…と思っていましたが、…という考えに変わりました。

Cさん

探究を通じて、身近な生活とのつながりを感じたことに着目して振り返ります。

…ので、身近な生活とのつながりがあることが分かりました。

Dさん

(6)

上の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

振り返り

(●設問1(6) 無解答率7.6%)

2 児童生徒質問調査の結果から

肯定的な回答:「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの 全国比:R7本市と全国を比較したもの R6本市比:R6の本市の値と比較したもの

自尊感情等

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
1	自分には、よいところがあると思う	小	85.1%	-1.8	+3.8	1 「自分には、よいところがあると思う」児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。失敗を恐れず挑戦し、成長を実感できる環境を整えることや、一人一人がかけがえのない存在であることを改めて自覚するような教師の声かけや場の設定が大切である。 2 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。児童生徒が将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、キャリア教育の充実が大切である。そのためにPTAや地域と連携した職業体験イベント、専門家によるワークショップ体験の開催、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」等を活用し、自らの進路について考える機会を設ける方法が考えられる。
		中	88.4%	+2.2	+3.8	
2	将来の夢や目標を持っている	小	81.5%	-1.6	+1.9	
		中	66.1%	-1.4	+2.7	
3	人の役に立つ人間になりたいと思う	小	96.2%	-0.2	+1.0	
		中	96.7%	+0.1	+0.5	

規範意識

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
4	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	97.0%	-0.2	+0.2	4 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。児童生徒が互いを尊重し、共感的な人間関係を築けるよう、学級活動や道徳科の授業等を充実させることが大切である。また、児童生徒間での対話を促進することで、感情や経験を共有し、自他を尊重する気持ちを高め、いじめの防止について共に考える取り組みを行うことが重要である。
		中	96.8%	+0.9	+0.3	

授業での活動

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
5	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	小	84.2%	-0.7	-2.0	5 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできている」と回答した児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。児童生徒個々の学習の深まりを把握し、児童生徒が意図や目的を明確にして話し合える場を保障するなど、対話的な学びの充実が必要である。 6 児童生徒質問調査において、「週3回以上PC・タブレットなどのICT機器を使用した」児童生徒の割合は、小・中ともに昨年度よりかなり高い。今後も児童生徒が端末を活用して自分の意見をまとめたり、自分と仲間との意見の違いを比較したりするなど、考えを深めたり、広めたりする機会を充実させていくことが重要である。一方、学校質問調査の結果から児童生徒と教師との間にICT機器の活用に対する意識の差が見られることにも留意したい。 7 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」と回答した児童の割合は昨年度よりやや高く、生徒の割合は昨年度とほぼ同じだが、全国よりもやや高い。引き続き、本市の重点事項である「主体性のある子どもの育成」に向け、児童生徒が自ら解決したくなるテーマで学習を展開していくことが重要である。
		中	84.7%	0	+0.6	
6	小学校5年生（中学生は1、2年生のとき）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか	小	76.3%	+4.6	+14.5	
		中	76.5%	0	+16.1	
7	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	小	83.2%	+0.9	+2.8	
		中	83.4%	+3.9	-0.1	

家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
8	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	51.3%	-2.7	+2.3	8 「普段1時間以上勉強している」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合はほぼ同じである。授業における振り返りの時間を確実に確保し、自分の学習状況を自覚する場を設けることで、家庭学習の必要感が得られるような取り組みが必要である。
		中	60.7%	-0.9	+0.7	
9	新聞を読んでいる（週に1～3回程度以上）	小	13.4%	+2.9	+0.3	9 「新聞を読んでいる」児童生徒の割合は全国よりやや高いものの、全体の1割程度である。社会情勢への興味・関心の高まりや知識量の増加、言語能力の向上の一助になることから、 <u>新聞記事を基にしたスピーチを取り入れるなど、児童生徒にとって興味のある内容を起点とし、新聞を身近に感じる意識を高める手立てが大切である。</u>
		中	9.0%	+3.3	-1.4	
10	学校の授業時間以外に普段（月～金曜日）、30分以上PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている	小	52.0%	+9.5	+0.9	10 「普段30分以上PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っている」児童の割合は全国より高く、生徒の割合はやや高い。今後も <u>活用の効果的な実践例を共有するとともに、小・中接続を意識した計画を立て、継続的に実践していくことが大切である。</u>
		中	36.0%	+4.4	-1.0	
11	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる	小	82.9%	+1.2	+1.6	11 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。自学自習ノートや一人1台端末に授業等で分からなかったことや疑問点を明示した上で、 <u>疑問点を整理し、解決策を考える習慣の定着を図ったり、学習の記録を残し、自分の成長を確認することで、自己調整力を高めたりすることが大切である。</u>
		中	78.6%	+1.1	+0.4	

家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
12	朝食を毎日食べている	小	94.4%	+0.7	-0.3	13 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合はほぼ同じである。規則正しい睡眠をとる児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向にあることから、 <u>学校と家庭が連携し、児童生徒の基本的な生活習慣の定着を図ることが大切である。</u>
		中	92.9%	+1.7	+1.2	
13	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	77.8%	-4.1	-4.2	14 「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった」と回答した児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒はやや高い。体験的な活動の充実に加え、 <u>理科や生活科等の授業においても自然への直接的な関わりを重視した授業を展開していることがうかがえ、生活科や理科における学力を支えているものと考えられる。</u>
		中	80.2%	-0.8	-0.4	
14 新規の質問	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった	小	82.4%	+1.8	—	
		中	79.5%	+3.8	—	

地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
15	地域や社会をよくするために何かしたいと思う	小	82.0%	+0.7	-0.9	15 「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。児童生徒が主体的に地域の清掃活動等へ参加する機会をもったり、 <u>学校運営協議会の委員や教職員と互いに意見を交わしたりすることを通して、地域貢献へのつながりや社会参画意識の醸成を図ることが大切である。</u>
		中	77.7%	+2.4	-0.5	

3 学校質問調査の結果から

肯定的な回答:「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」等を足したもの 全国比:令和7年度本市と全国を比較したもの

R6本市比:本市令和7年度と令和6年度を比較したもの(令和6年度に調査項目に無かった質問は令和5年度と比較したもの) ◎は今年度新しく掲載した質問

児童・生徒指導等

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
1	授業中の私語が 少なく、落ち着いて いる	小	75.0%	-10.9	-4.3	1 肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに 昨年度を下回ったが、児童生徒同士が問題解 決に向けて、自由に対話できる環境を設定し ていることも要因として考えられるため授 業改善の途上であるとの見方もできる。今後 も教師が主体的に教材研究を行い、児童生徒 の学びに向かう姿を丁寧にとらえることで、 個に応じた学びを保障できるようにする必 要がある。
		中	84.6%	-7.4	-11.6	
2	前年度までに、将 来就きたい仕事や 夢について考えさ せる指導をした	小	67.2%	-18.9	+4.2	2 肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校 でかなり低く、中学校ではほぼ同じである。 日頃から児童生徒理解に努めたり、積極的に コミュニケーションを図ったりしながら個々 のよさを見つけ、意図的な声かけによって自 覚化を促すことが大切である。また、体験活 動や働く人の姿や考え方にふれる機会を充実 させるなど、特別活動を要としたキャリア教 育の充実を図る必要がある。
		中	100%	+1.6	0	

学校運営に関する状況

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
3	ICTを活用した校務 の効率化（事務の軽 減）の優良事例を取り 入れている	小	100%	+1.0	0	4,5 「PDCAサイクルの確立」について、肯定 的な回答の割合は、全国と比べ小・中学校 ともにやや低いが、改善傾向にある。学校 評価等により把握した現状に対する手立 てを学校として明確化した上で確実に実 践することや、その取り組みや結果につい て学校運営協議会や保護者に情報を提供 しながら、さらなる改善を図るサイクルを 構築することが重要である。
		中	100%	+1.7	0	
4	児童生徒の姿や地 域の現状等に関する 調査や各種データ等 に基づき、教育課程を 編成し、実施し、評価 して改善を図る一連 の PDCA サイクルを確 立している	小	93.8%	-3.3	+3.3	また、「実践的な研修」については、中 学校において昨年度より肯定的な回答が増 えている。今後も、各校の切り口から重点 的に取り組むべき事項を学校全体で共有 し、各校の実態に応じて計画的に進める必 要がある。
		中	92.3%	-3.7	+3.8	
5	授業研究や事例研 究など、実践的な研修 を行っている	小	96.9%	-1.7	+0.1	
		中	92.4%	-2.9	+3.9	

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
6	授業では、課題の解 決に向けて、自分で考 え、自分から取り組む ことができている	小	82.8%	-6.5	-2.9	6,7 「課題の解決」「学級活動」につい て、肯定的な回答の割合は、全国と比 べて小学校は低く、中学校はかなり低 い。特に中学校における「課題の解決」 については昨年度より大きく低下し ている。生徒自身が解決したいと思え る課題を自ら設定できるような働き かけと、課題にじっくりと向き合いな がら解決する授業づくりが肝要であ る。
		中	69.2%	-19	-19.3	
7	学級活動の授業を通 して今努力すべきこと を学級での話し合いを 生かして、一人一人 の児童生徒が意思決 定できるような指導 を行っている	小	89.1%	-4.7	-3.5	また、学級活動においては、特に中 学校では生徒が自主的、自治的な学級 や学校の生活づくりを実感できるよ うな活動を意識したい。
		中	73.0%	-19.6	-11.6	
8	特別の教科 道徳にお いて、児童生徒自らが 自分自身の問題とし て捉え、考え、話し 合うような指導の工 夫をしている	小	82.9%	-13.7	-7.6	
		中	88.5%	-8.6	0	

ICT の活用

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
9	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3日以上活用した	小	96.9%	+0.3	-1.5	10 「自分の考えをまとめ、発表する場面で活用した」については、特に中学校において大幅な改善が見られる。他者参照を行うことで学習の理解を深め、学びの質が向上するなどの利点を学校全体で共有し、効果的な活用方法を取り入れている成果であると考えられる。課題解決の各場面（課題をもつ、情報収集、整理・分析、まとめ・発表）における目的を明確にした活用の方法については、さらに研究が必要である。
		中	92.2%	-2.3	-0.1	
10	自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3日以上活用した	小	45.4%	-6.8	+8.9	
		中	57.7%	+5.4	+27.0	

特別支援教育

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
11 ◎	障害のある児童生徒を念頭に置いた指導上の工夫を行った	小	95.3%	-2.1	—	11 肯定的な回答の割合は、全国と比べて小・中学校ともほぼ同じである。今後も、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援や合理的配慮を行うため特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築・維持する必要がある。
		中	96.1%	-0.8	—	

小学校教育と中学校教育の連携

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
12	近隣等の小（中）学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	31.2%	-34.1	-2.2	12 肯定的な回答の割合は、全国と比べ小・中学校ともかなり低い。令和7年度より行っている「区域を核とした研修」により、各校の切り口を具体化した授業を参観したり、小・中の接続を念頭に置いて児童生徒理解を深めたりするなど、研修の機会を有効に活用していきたい。
		中	38.5%	-33.2	-3.8	

家庭や地域との連携

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
13	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった	小	98.4%	+5.1	+3.2	13 肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校は高く、中学校はやや高い。また昨年度より上昇しており、コミュニティ・スクールの機能の高まりがうかがえる。引き続き「地域とともにある学校」を念頭に、学校や家庭、地域が課題やビジョンを共有しながら、特色ある学校づくりを推進したい。
		中	92.4%	+3.4	+7.7	

調査結果の活用

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 6 本市比	考 察
14	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	小	89.1%	-7.4	+0.2	14 肯定的な回答の割合は、全国と比べ、小学校は低く、中学校はかなり低い。中学校においては昨年度よりも大きく低下し、改善が急務である。本調査の結果から児童生徒の実態をとらえ、学校全体で共有し、授業や指導の改善に生かす体制づくりが重要である。
		中	76.9%	-17.1	-11.6	

V 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から令和7年度までに実施された15回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

今年度の調査結果を分析することにより富山市における課題を明らかにし、今後の授業改善に向けた指導のポイントについて提案する。また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するにあたり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

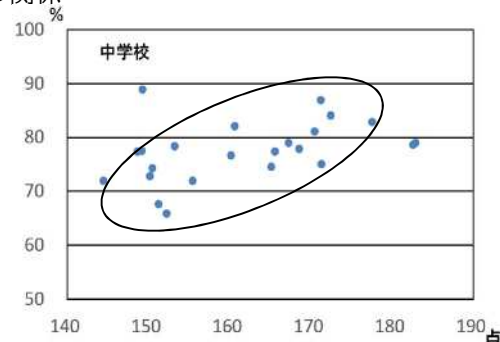
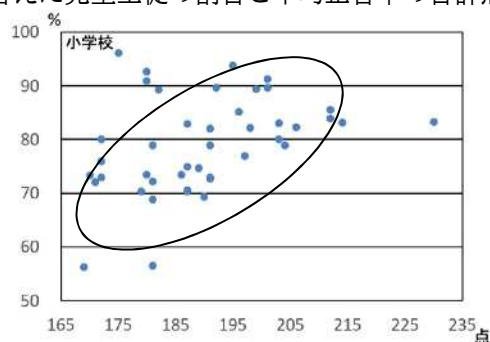
2 教科に関する調査と児童生徒質問調査及び学校質問調査の関連

(1) 学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問調査の回答状況との相関関係

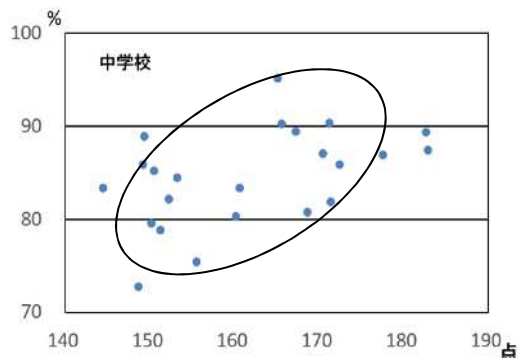
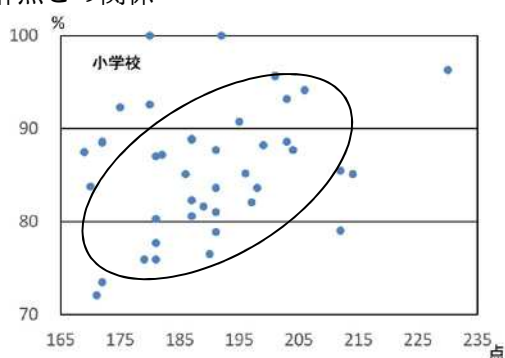
※中学校理科 IRT による予測平均正答率を含む、3教科の平均正答率で示す。

①「問題解決的な学習」に関すること

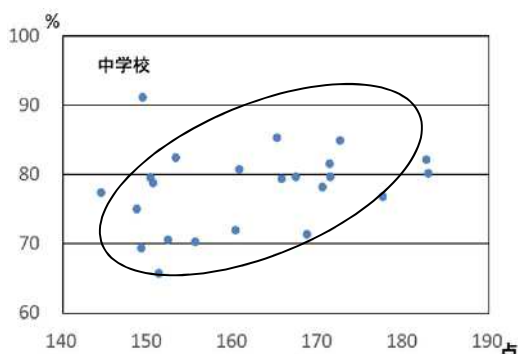
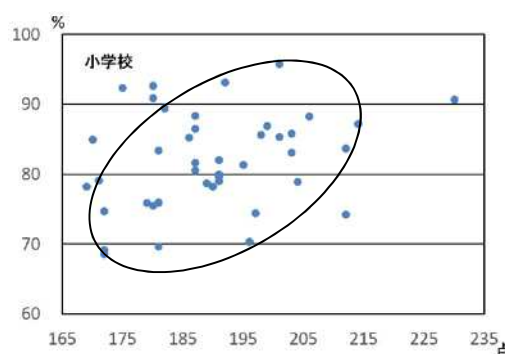
- 児童生徒質問調査 32 「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



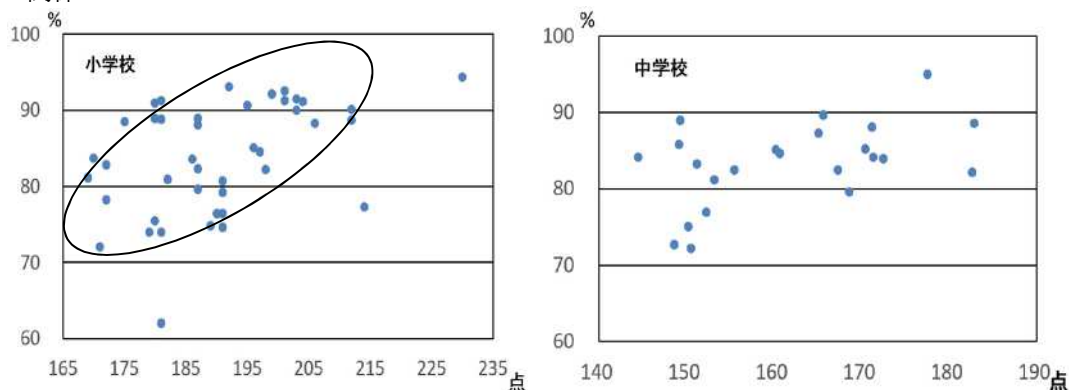
- 児童生徒質問調査 35 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問調査 37 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

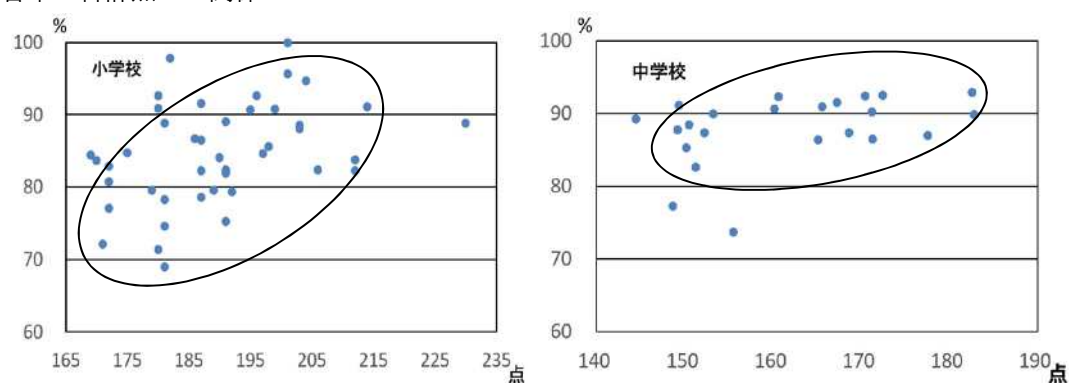


- 児童質問調査 40 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

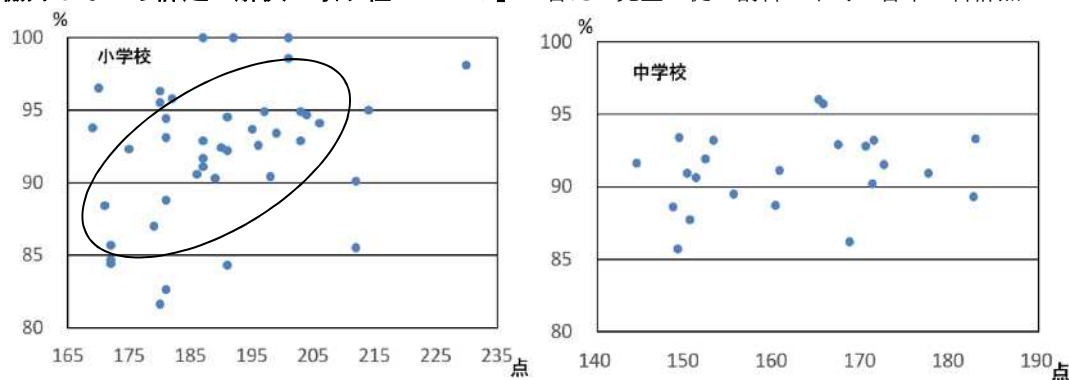


② 「非認知能力」に関すること

- 児童生徒質問調査 5 「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

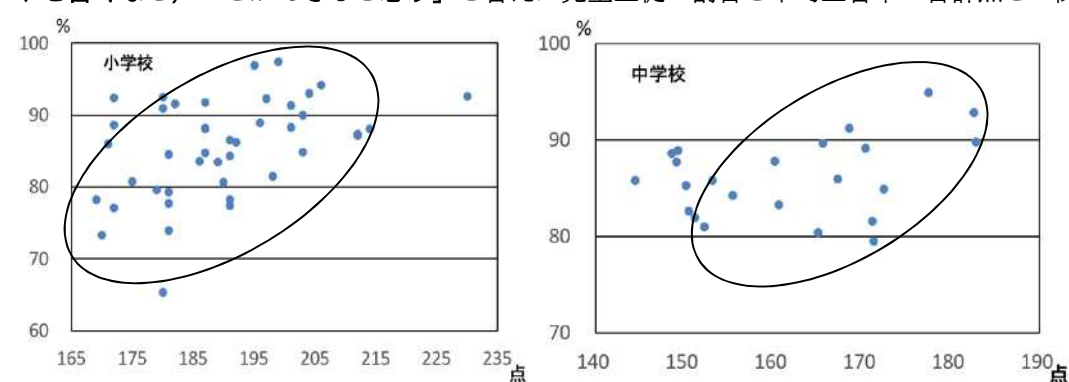


- 児童生徒質問調査 39 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

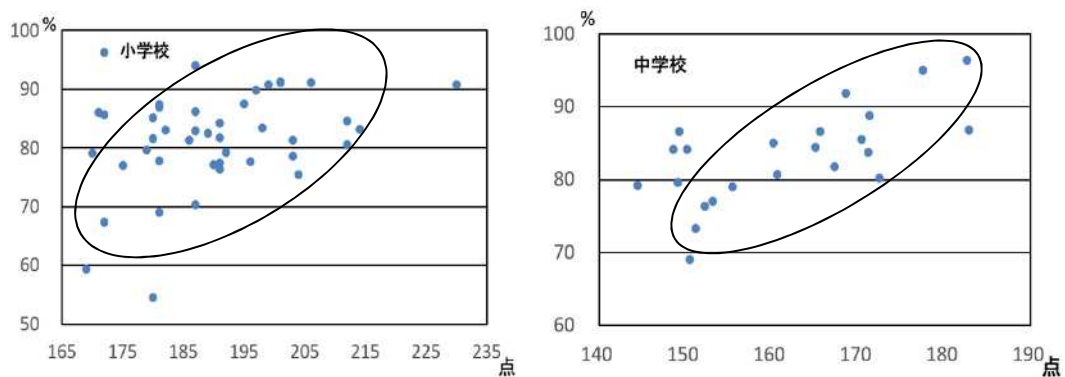


③ ICTの活用に関すること

- 児童生徒質問調査 29-1 「PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

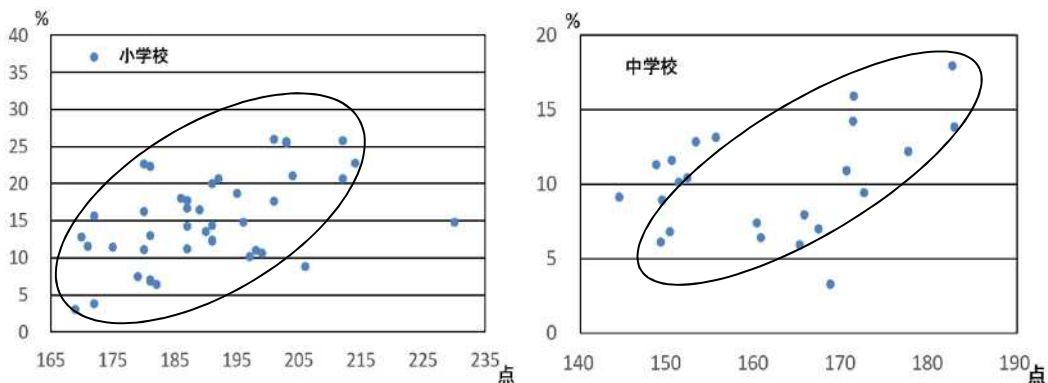


- 児童生徒質問調査 29-4 「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

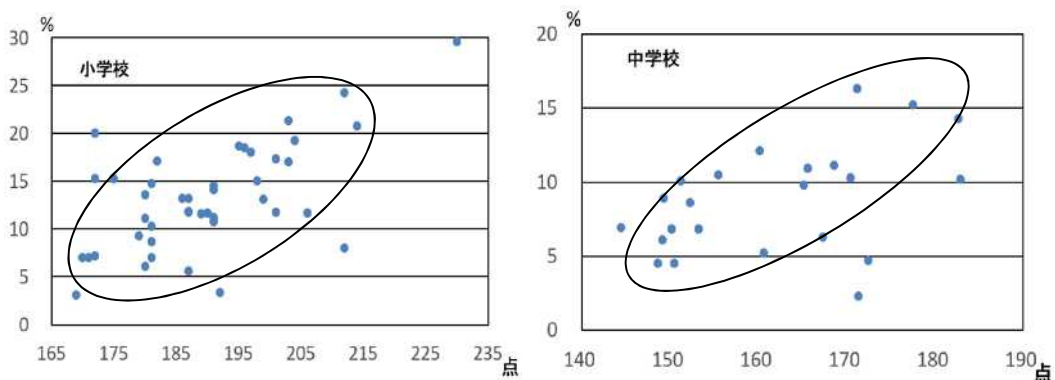


④ 「家庭での過ごし方」に関すること

- 児童生徒質問調査 21 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの読書（電子書籍の読書を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）をする時間が1時間以上」と答えた生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問調査 23 「新聞を週に1～3回程度以上読んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

- ※ 児童生徒質問調査の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。
- ※ 相関係数が0.25以上の場合は、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。

以上の結果から、次の4点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

- ＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和7年度の全国学力・学習状況調査から—＞
- 1 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—
 - 2 「非認知能力の育成」 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力をはぐくむ—
 - 3 授業でのICT活用 —個や協働の各場面における端末の活用—
 - 4 「家庭でのくらし」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

これらの4点については、これまでも各学校において取り組んできたが、今後も引き続き授業改善に向けた工夫を考え、継続して取り組んでいく必要がある。

- (2) 学校質問調査の各質問項目における平均正答率からみた2教科合計ポイントの平均
- 以下に、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問調査の項目に関連した学校質問調査の一部の項目を挙げた。※2教科は国語科と算数科・数学科を示す。

質問事項	回答			
	上段：平均正答率からみた2教科合計ポイント平均 下段：回答学校数		☐ よく行った ☐ どちらかといえば行った ☐ あまり行っていない ☐ 全く行っていない ☐ その他・無回答	
(30) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した	131 点 24 校	122 53	119 11	
(31) 児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した	128 33	120 49	130 6	
(32) 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	128 24	122 49	122 15	
(33) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	134 16	122 57	122 15	
(34) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	134 6	125 59	120 23	
(36) 調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている	129 37	119 47		
(56) 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	127 53	121 32		
(58) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用した	ほぼ毎日 126 59	122 18	116 9	週3回以上 週1回以上
(61) 教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている	ほぼ毎日 130 32	119 18	122 25	123 8 週3回以上 週1回以上 月1回以上
(62) 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させている	129 16	124 18	121 36	128 12 ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上
(80) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	125 34	124 47	121 7	
(81) 家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行った	128 27	123 50	117 11	

※回答学校数が5校以下の項目の数字は省く。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

3 授業改善に向けた指導の重点

児童生徒質問調査においては、学習活動に関して、

- 「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒」
- 特に小学校においては、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童」と平均正答率に正の相関があるという結果がみられた。

いずれの教科においても記述式の問題において正答率が低かったが、全国的に見てその傾向は続いており、本市においても課題である。

また、今回の調査における平均正答率と授業においてICT機器を活用する技能について、文章やプレゼンテーションを作成できる児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があるという結果がみられ、その程度は学校によって差が大きく、ICT機器の使用頻度との関連がみられた。

以上のことから、以下の4点が本市における授業改善に向けた指導の重点として挙げられる。

＜本市における授業改善に向けた指導の重点－令和7年度の全国学力・学習状況調査から－＞

- 1 「問題解決的な学習」の充実－児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て－
- 2 「非認知能力の育成」－課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力をはぐくむ－
- 3 授業でのICT活用－個や協働の各場面における端末の活用－
- 4 「家庭でのくらし」の充実－学校の授業と家庭学習のリンク－

令和7年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市における授業改善に向けた指導の重点について、指導のポイントを挙げる。

(1)「問題解決的な学習」の充実－児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て－

教師がテーマを提示し、そのテーマを基に、児童生徒が自分の内側から湧いてくる問いに気づき、自ら解決したい問いを決め、解決のための計画を立て、情報収集を行い、必要な実践の後、結果を考察し発表するといった一連の活動に取り組む問題解決的な学習、いわゆるPBL(ProjectまたはProblem Based Learning)の充実を図ることが引き続き重要である。

富山市学校教育指導方針のP.14「学習指導」における「問題解決的な学習の展開」では、次のように示している。

2 問題解決的な学習の展開



問題解決的な学習を授業で行うためには、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実践が不可欠である。今回の質問調査において「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があったことから明らかである。これまでに実践されてきた、各教科と総合的な学習の時間、特別活動との連携、教科で取り扱う内容や行事の精選に取り組んでいる成果が表れていると考えられる。今後も、教師が各教科等の内容や系統を理解し、児童生徒の資質・能力の育成のために、カリキュラム・マネジメントを充実させることが大切である。

そして、問題解決的な学習を進める中で、情報を収集する際や情報を整理・分析する際に、児童生徒が自分の考えを構築するための具体的な方法や道筋を、教師が提示し選択できるようにしたり、相談・助言したりすることが有効である。「今、どこまでできているのか」「何か困っていることはないか」「どうしていこうと思っているのか」など、教師が児童生徒の学習状況をとらえてニーズに合わせて個別の指導や支援を行い、自分の学習の状況をメタ認知し自覚的に安心して学習できる環境をつくることも大切である。

以上のように、児童生徒の実態をとらえて計画を立て、次のような適切な手立てを継続して行うことが、児童生徒の力を高めていくことを改めて確認したい。

① 児童生徒が自ら解決したい問いを決めるための手立て

(ア)「疑問を感じる種をまく」

- ・様々な場面において「どうして?」「なぜ?」と疑問をもつことができるよう、教師が日ごろから「はてな」を投げかけ、疑問から問いを生み出す。

(イ)「解決したくなるテーマで学習を展開する」

- ・児童生徒の実態に合わせ、広がりをもてるテーマを選定する。
- ・児童生徒自身が必要感や切実感をもてる課題を設定できるようにする。

② 児童生徒が解決のために試行錯誤を繰り返すための手立て

(ア)「失敗を受け入れられる集団づくり」

児童生徒が失敗を恐れずに挑戦するには、自己肯定感から自己有用感につながる背景が重要である。指導方針 P.13 学年・学級経営「主体性のある子どもを育成する学年・学級経営」における重点を確認したい。また、イエナプラン的教育の「20の原則」の一つに「すべての人はユニーク」がある。一人一人が尊重される集団づくりも大切にしていきたい。

(イ)「『自分が動けば何かが変わる』経験をする」

児童生徒を「持続可能な社会の創り手」へと育て上げるために、新しいものを創り上げたり今まであったものごとを変化させたりする経験が必要である。知識としてだけでなく、参画してみて失敗も成功もあるような、実感を伴う体験が望ましい。指導方針「第2章『主体性のある子どもの育成』に向けた授業改善」を参考にしてもらいたい。

(ウ)「子どもの柔軟な思考を生かす授業の展開」

児童生徒のつぶやきや学びに向かう姿から、その背景や発展の可能性等を教師が見出し、機を逃さず個に応じた支援を行うことで、児童生徒が自分のよさや可能性を感じながら学びを充実させていけるようにしたい。

③ 児童生徒が結果を考察し表現するための手立て

指導方針 P.26 のように、問題解決的な学習では4つの学習過程を繰り返して学びを継続していく。特に「まとめ・表現」の過程では、自分の学びの過程をふまえ、その成果と課題を振り返る時間を確保し、次の活動へつなげていくことが重要である。

また、それぞれの児童生徒が「何が気になったのか」「どのように取り組んできたのか」といった学びの過程も含めてまとめたり、「何を伝えたいか」を考えたりする際に、その内容や技能に適したツール（ノート、Chromebook、ホワイトボード等）や方法（文章、図絵、プレゼンテーション等）について具体的に学ぶ機会をつくり、効果的に活用することができるようにすることも必要である。

教師から一方的に与えるのではなく、児童生徒が自分なりの根拠をもって学びのまとめ方を自己決定して表現できるようにしていきたい。

(2)「非認知能力」の育成

－課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力を育む－

非認知能力は、幼児期後半から、「自分で決定したことを実行する」「成功体験や失敗体験を積み重ねる」「仲間と協働的に活動する」などを通して獲得されていくと言われる。教師は、授業（単元）を構想する際、「この授業（単元）において、児童生徒はこのようなことを楽しんで取り組んでいこう」「このようなことを児童生徒が自分で決定できるようにすれば、より主体的に進めていくのではないか」「このような教材を児童生徒に提示すればこのような問題が生まれるだろう」「仲間と共に学ぶ必然性はどこに生まれるだろう」など、児童生徒の具体的な姿を想定し、支援や手立て、学習環境を工夫しておくことが大切である。教師がこのように授業を構想することによって、児童生徒の発想や可能性をつぶさを感じられるようになり、教師の予想を超える児童生徒の発言や姿にも共感したり、共に考えたりできるようになる。

また、児童生徒は、体験したことを整理、分析し、これまで経験したこと、学んだことを振り返り、比較していく中で学びを深めていく。その過程では、対話することを大切にしたい。体験をとおして、「どのようなことを感じたのか」「どのようなことを考えるようになったのか」などを、児童生徒同士、児童生徒と教師等で対話をしていく中で、児童生徒が自分なりの言葉で表現し、その言葉を仲間や教師がよく聞き、受け止めたり、認めたりする。この過程を通して、児童生徒は自分のよさや可能性を感じ、自己肯定感を高めることにつながる。そのようななかかわりの中で、非認知能力が育まれていくことが期待できると考える。

(3)授業でのICT活用 ―個や協働の各場面における端末の活用―

「富山市GIGAスクール構想推進ロードマップ」において、令和7年度は個別最適・協働的な学びの充実を支える文房具の一つとして端末を効果的に使うことを目標としている。学校質問調査において、「教職員と児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をよく使用させている」と答えた学校の児童生徒の平均正答率が高かったことから、児童生徒が自分の学びの過程を含めた成果や課題を端末に入力しながら振り返る中で、教師は一人一人の状況をとらえ、その子に応じた助言や支援をすることが児童生徒の学力向上につながっていると考ええる。また、「児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をよく使用させている」と答えた学校の児童生徒においても平均正答率が高かったことから、児童生徒が端末を活用して自分の意見をまとめることで、自分と仲間との意見の違いを容易に比べることが可能になり、考えを深めたり、広めたりする機会が充実してきたことも児童生徒の学力向上につながっていると考ええる。

さらに、先に述べた問題解決的な学習に取り組む中で、児童生徒が情報を収集したり、調べたことを整理・分析したりするなど様々な学習場面において、学び方として端末の有効な活用を身につけ、児童生徒自らが判断し、必要に応じて端末を活用していくことができるよう指導することが不可欠である。

ICT活用能力は使用頻度によって左右される。小学校間の差、小学校・中学校間の差が生じないように、引き続き富山市全体で端末活用の推進に取り組む必要がある。

(4)「家庭でのくらし」の充実 ―学校の授業と家庭学習のリンク―

学校の授業と家庭学習に連続性をもたせることで、更なる学力の向上が期待できると考えられる。その際、学校と家庭が連携し、児童生徒の興味関心をとらえて、課題意識をもたせる働きかけを行うことが大切である。

児童生徒質問調査において、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていますか」という問いに肯定的に答えた学校の児童生徒の正答率が高かった。このことから、授業における、「振り返り」の時間を確保することが有効であると考ええる。学習内容を確認する「まとめ」とは異なり、「振り返り」は自分自身の学びを客観し、これまでの経験や学習と関連づけながら意味付けていくものである。「振り返り」によって新たな疑問や次への見通しをもつことができる。その中の視点として「分かったこと」「新たな疑問」「更に考えたいこと」「家庭で考えたいこと」などを示すといった工夫をすることで、家庭学習への連続性につながるものと考ええる。

また、学校の授業時間以外に、平日1時間以上の読書に取り組んでいたり、新聞を週に1～3回程度以上読んでいたりする児童生徒においても平均正答率が

高くなった。家庭生活を含めて自分のくらしを充実させるために、読書や新聞を読むことなど、自ら知識を獲得したり、知的好奇心を満たしたりすることは、学力の向上につながるものとみられ、家庭学習との連携や生活習慣の改善と合わせて取り組んでいく必要があると考える。

以上のようなことを意識することにより、児童生徒自身が学ぶことの意義を味わうことができ、結果として学力の向上につながっていくと考えられる。各学校の実態に応じ、家庭学習の充実に向けての方策を考えていくことが必要である。



授業改善に向けた指導の重点を述べてきたが、平均正答率が高い学校に共通していると思われるのは、研修会等で学校の課題を的確にとらえて教職員が解決策を共通理解し、継続して取り組んでいることである。児童生徒の姿を基に語り合ったり、授業改善に向けた小さな取り組みを積み重ねたりできる学校の雰囲気づくりが児童生徒の学力向上につながると考えられる。

〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査
富山市と全国、県との平均正答率・平均 IRT スコアの比較
- 2 小学校6年生 設問別結果一覧
- 3 中学校3年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問調査
- 5 学校質問調査

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率・平均IRTスコアの比較 (H19～R7)

- ・H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31、R3、R4、R5、R6、R7：対象学年全員参加方式で実施。
- ・H22、24：抽出方式で実施。（抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。）
- ・H23、R2：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校6年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75
	市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4
	市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1
	富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74
	県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3
	全 国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71

国語 B										
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60
4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5
0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2
66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58
4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3
62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55

国語						
H31	R3	R4	R5	R6	R7	
70	66	67	69	68	69	
6	1	1	2	0	2	
2	-1	0	0	-1	0	
68	67	67	69	69	69	
4	2	1	2	1	2	
64	65	66	67	68	67	

		算数 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68
	市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4
	市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2
	富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66
	県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2
	全 国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64

算数 B										
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57
3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5
0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2
66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55
2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3
63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52

算数						
H31	R3	R4	R5	R6	R7	
70	73	66	65	64	60	
3	3	3	2	1	2	
1	0	0	0	0	-1	
69	73	66	65	64	61	
2	3	3	2	1	3	
67	70	63	63	63	58	

【中学校3年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78
	市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2
	市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0
	富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78
	県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2
	全 国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76

国語 B										
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63
4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2
-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0
77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63
5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2
72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61

国語						
H31	R3	R4	R5	R6	R7	
76	66	70	71	60	55	
3	1	1	1	2	1	
0	1	0	0	0	-1	
76	65	70	71	60	56	
3	0	1	1	2	2	
73	65	69	70	58	54	

		数学 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71
	市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5
	市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1
	富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70
	県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4
	全 国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66

数学 B										
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51
4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4
-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0
65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51
5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4
60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47

数学						
H31	R3	R4	R5	R6	R7	
65	59	55	54	56	51	
5	2	4	3	3	3	
0	0	0	0	0	0	
65	59	55	54	56	51	
5	2	4	3	3	3	
60	57	51	51	53	48	

【小学校6年生】

		理科				
		H24	H27	H30	R4	R7
平均正答率	富山市	66.2	67.1	65	69	61
	市一全国	5.3	6.3	5	6	4
	市一県	0.6	-0.4	1	1	-1
	富山県	65.6	67.5	64	68	62
	県一全国	4.7	6.7	4	5	5
	全 国	60.9	60.8	60	63	57

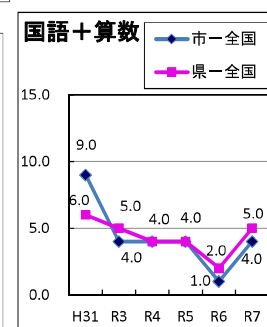
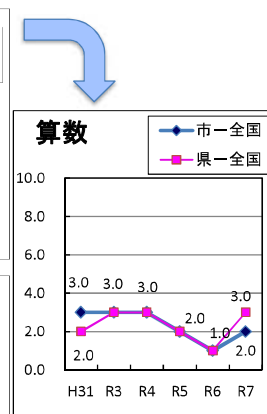
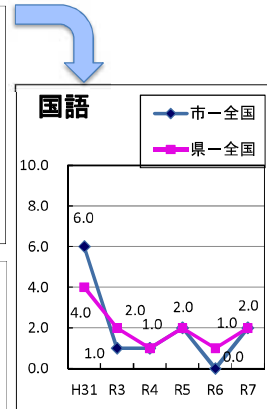
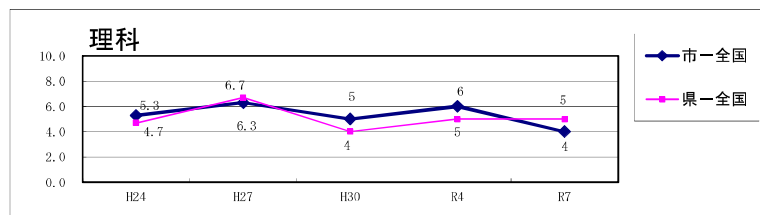
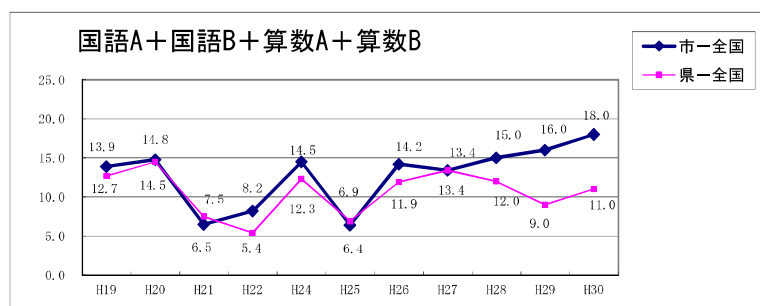
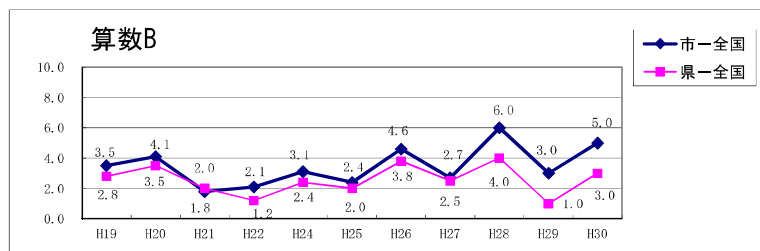
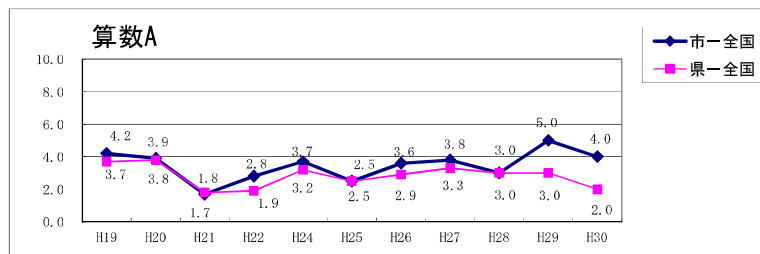
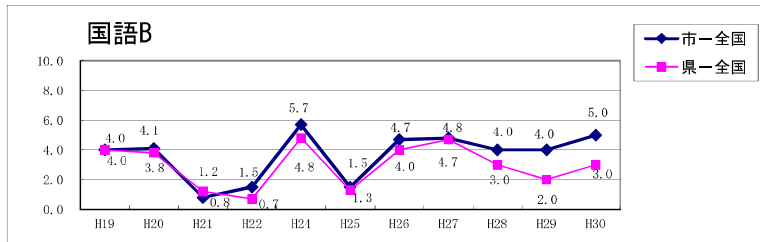
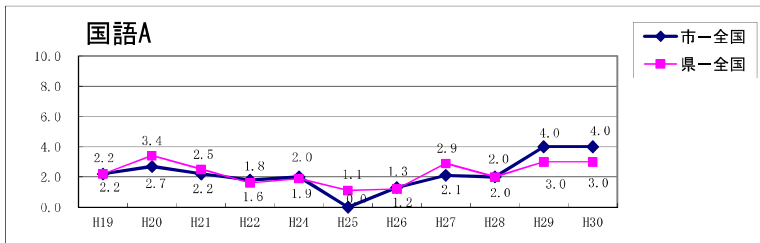
【中学校3年生】

		理科			
		H24	H27	H30	R4
平均正答率	富山市	58.0	60.8	70	52
	市一全国	7.0	7.8	4	3
	市一県	1.2	1.6	0	0
	富山県	56.8	59.2	70	52
	県一全国	5.8	6.2	4	3
	全 国	51.0	53.0	66	49

		理科
		R7
平均IRTスコア	富山市	515～545未満
	市一全国	
	市一県	
	富山県	515～
	県一全国	
	全 国	503

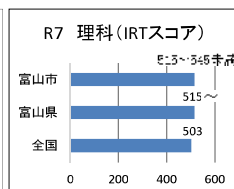
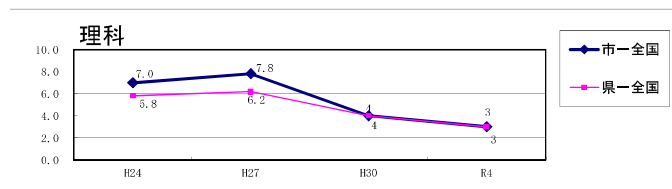
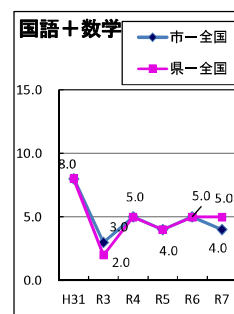
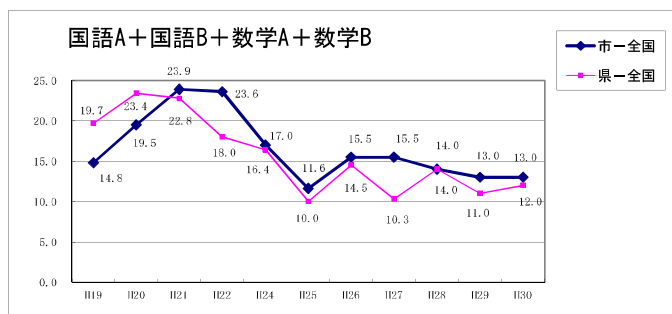
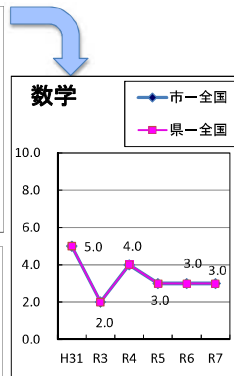
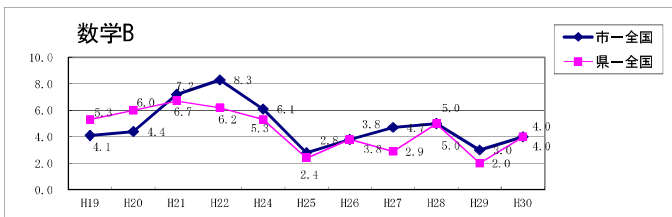
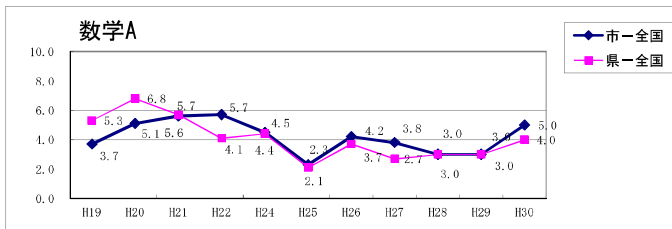
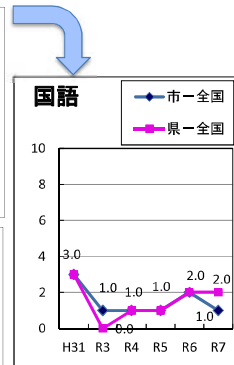
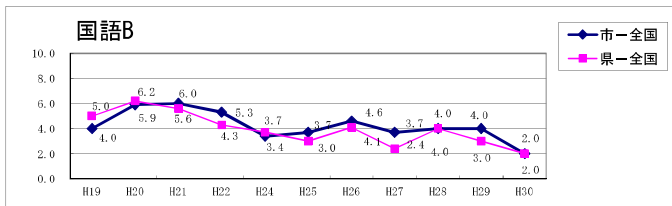
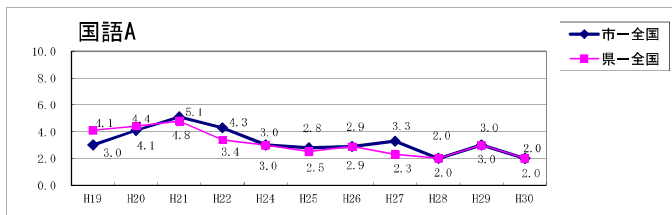
【小学校 6 年生】

※全国の平均正答率との差（％）



【中学校 3 年生】

※全国の平均正答率との差（％）



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1) 言葉の事項や使い方に	(2) 情報の扱い方に	(3) 我が国の言語文化に関する事項							
			A	B	C							
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる			5・6ア			○		○		富山市55.7 43.90.4 全国(公立)53.3 46.20.5 0%20%40%60%80%100%
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6イ			○			○		富山市67.4 32.30.3 全国(公立)63.1 36.40.5 0%20%40%60%80%100%
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる			5・6エ			○		○		富山市71.7 27.90.4 全国(公立)71.8 27.60.6 0%20%40%60%80%100%
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			5・6エ			○		○		富山市74.2 25.40.4 全国(公立)73.7 25.70.6 0%20%40%60%80%100%
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる		3・4イ				○		○		富山市64.0 35.01.0 全国(公立)65.5 33.70.8 0%20%40%60%80%100%
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			5・6エ			○		○		富山市82.9 16.30.8 全国(公立)81.8 17.40.8 0%20%40%60%80%100%
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			5・6ウ			○			○	富山市62.9 31.65.5 全国(公立)61.3 33.75.0 0%20%40%60%80%100%
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(このみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ					○		○		富山市83.2 10.46.4 全国(公立)81.6 11.27.2 0%20%40%60%80%100%
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す(あついで)		5・6エ					○		○		富山市89.6 8.02.4 全国(公立)72.1 23.64.3 0%20%40%60%80%100%
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる		5・6ウ				○		○		富山市81.2 17.31.5 全国(公立)81.2 17.51.3 0%20%40%60%80%100%

【小学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式	
			(1) 言葉の特性や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる						1・2ア		○	○	富山市83.7 13.33.0 全国(公立)81.6 15.52.9 0%20%40%60%80%100%
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さへ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる						5・6ア		○	○	富山市53.6 43.92.5 全国(公立)51.3 46.32.4 0%20%40%60%80%100%
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6ウ		○	○	富山市39.5 56.93.6 全国(公立)40.8 55.83.4 0%20%40%60%80%100%
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6ウ		○	○	富山市52.4 27.919.7 全国(公立)56.3 27.516.2 0%20%40%60%80%100%

【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
1(1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○			富山市83.516.10.4 全国(公立)78.720.90.4
1(2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(ア)	○				○		富山市33.665.70.7 全国(公立)31.068.10.9
1(3)	示された表から、「春だいにん」や「秋冬だいにん」より「夏だいにん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○			○			富山市75.322.52.2 全国(公立)71.624.93.5
1(4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)					○				○		富山市76.720.52.8 全国(公立)74.522.92.6
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	4(1) ア(イ)					○			○			富山市64.933.81.3 全国(公立)58.340.51.2
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	4(1) ア(イ)					○			○			富山市46.353.20.5 全国(公立)50.249.10.7
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	4(5) ア(ア)					○			○			富山市79.819.30.9 全国(公立)79.319.71.0
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(3) ア(ア) ※					○				○		富山市42.055.62.4 全国(公立)37.060.32.7
3(1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ウ)					○				○		富山市76.121.22.7 全国(公立)74.123.12.8
3(2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) ア(ア) イ(ア)					○				○		富山市23.360.116.6 全国(公立)23.061.315.7
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○				○		富山市38.154.97.0 全国(公立)35.057.27.8

【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
3(4)	$1\frac{1}{2} + 1\frac{1}{3}$ を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができかどうかをみる	5(5) ア(ア)					○				○		富山市 85.4 11.1 3.5 全国(公立) 81.3 14.6 4.1
4(1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)		○		○			富山市 85.3 12.6 2.1 全国(公立) 82.8 14.6 2.6
4(2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)		○				○	富山市 51.0 46.1 2.9 全国(公立) 48.7 47.9 3.4
4(3)	はかりが示された場で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○		富山市 60.0 35.7 4.3 全国(公立) 60.9 34.9 4.2
4(4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かをを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」「増量前の量」の割合になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) イ(ア)			○		○			富山市 45.7 50.3 4.0 全国(公立) 40.9 55.0 4.1

※…本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

【小学校 理科】

問題 番号	問題 の 概 要	出 題 の 趣 旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式			
			A区分		B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式		記述式
			領域 「エネルギー」を柱とする	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域							
正答率 誤答率 無解答率													
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発見し、表現することができるかどうかをみる				4B(3)ア(イ)※		○			○	富山市 83.3 14.5 2.2 全国(公立) 79.5 18.0 2.5 0%20%40%60%80%100%	
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方をまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を得た理由を表現することができるかどうかをみる				4B(3)ア(イ)※		○			○	富山市 65.0 28.0 7.0 全国(公立) 60.5 31.0 8.5 0%20%40%60%80%100%	
1(3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる				4B(3)ア(イ)※		○		○		富山市 81.8 17.6 0.6 全国(公立) 77.8 21.3 0.9 0%20%40%60%80%100%	
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があること、その知識が身に付いているかどうかをみる	3A(5)ア(イ)	3A(4)ア(ア)				○			○	富山市 12.7 86.7 0.6 全国(公立) 10.6 88.8 0.6 0%20%40%60%80%100%	
2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発見し、表現することができるかどうかをみる	3A(5)ア(ア)※(イ)※					○		○		富山市 44.4 55.0 0.6 全国(公立) 42.9 56.5 0.6 0%20%40%60%80%100%	
2(3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A(3)ア(イ)					○			○	富山市 79.3 18.1 2.6 全国(公立) 78.0 19.3 2.7 0%20%40%60%80%100%	
2(4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4A(3)ア(ア)					○			○	富山市 55.8 43.6 0.6 全国(公立) 55.1 44.1 0.8 0%20%40%60%80%100%	
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて遊び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる			5B(1)ア(エ)			○			○	富山市 76.1 22.7 1.2 全国(公立) 70.7 27.8 1.5 0%20%40%60%80%100%	
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる			5B(1)ア			○			○	富山市 45.8 53.6 0.6 全国(公立) 45.6 53.6 0.8 0%20%40%60%80%100%	

【小学校 理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点		問題形式			
			A区分		B区分		知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			領域 「エネルギー」を柱とする	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域						

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式			
			知識及び技能		思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式	
			(1)言葉の使い方に関する事項	(2)情報の扱い方に関する事項	(3)我が国の言語文化に関する事項					
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1	変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ				○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 36.1 63.8 0.1 全国(公立) 35.2 64.6 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかをみる			1ア		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 82.8 17.1 0.1 全国(公立) 82.5 17.3 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考察することができるかをみる			1イ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 65.9 33.7 0.4 全国(公立) 63.3 36.2 0.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1	ちらしの読み手に向けて、今年の実術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかをみる			1ウ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 32.1 66.2 1.7 全国(公立) 31.0 67.4 1.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる			2ウ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 41.2 58.6 0.2 全国(公立) 38.1 61.6 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる			1ウ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 78.3 21.5 0.2 全国(公立) 77.9 21.8 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかをみる			2イ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 75.9 23.6 0.5 全国(公立) 73.4 26.0 0.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかをみる			2ウ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 24.8 70.8 4.4 全国(公立) 23.2 72.8 4.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかをみる			1エ		○		○	正答率 誤答率 無解答率 富山市 80.9 18.6 0.5 全国(公立) 80.0 19.5 0.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			知識及び技能			思考力・判断力・表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式		記述式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
			(1)言葉に関する特 徴や使い 方	(2)情 報の 扱 い 方 に 関 す る 事 項	(3)我 が 国 の 言 語 文 化 に 関 す る 事 項									A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	B 書 く こ と	C 読 む こ と																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
3 一	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる						2 ア	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	記述式	
												正答率 誤答率 無解答率
1	1から9までの数の の中から素数を全て 選ぶ	素数の意味を理解 しているかどうかを みる	1(1) ア(ア)					○		○		富山市 30.7 68.9 0.4 全国(公立) 31.8 67.5 0.7
2	果汁40%の飲み物 amlに含まれる果 汁の量を、aを用い た式で表す	数量を文字を用い た式で表すことが できるかどうかを みる	1(2) ア(エ)					○		○		富山市 56.9 37.1 6.0 全国(公立) 51.9 40.8 7.3
3	△ABCにおいて、 ∠Aの大きさが5 0°のときの頂点A における外角の大 きさを求める	多角形の外角の意 味を理解している かどうかをみる		2(1) ア(イ)				○		○		富山市 55.6 42.3 2.1 全国(公立) 58.1 39.9 2.0
4	一次関数 $y=6x+5$ について、xの増 加量が2のときのy の増加量を求める	一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割 合を基に、xの増加 量に対するyの増加 量を求めることが できるかどうかを みる			2(1) ア(ア)			○		○		富山市 40.3 52.2 7.5 全国(公立) 34.7 57.3 8.0
5	ある学級の生徒40 人のハンドボール 投げの記録をまと めた度数分布表か ら、20m以上25m 未満の層の相対 度数を求める	相対度数の意味を 理解しているかど うかをみる				1(1) ア(ア)		○		○		富山市 51.5 40.7 7.8 全国(公立) 42.5 48.1 9.4
6(1)	連続する二つの3 の倍数の和が9の 倍数になるとは限 らないことの説明 を完成するために、 予想が成り立たな い例をあげ、その和 を求める	事柄が常に成り立 つとは限らないこと を説明する場面 において、反例をあげ ることができるかど うかをみる	2(1) ア(ウ) イ(イ)					○		○		富山市 64.3 30.6 5.1 全国(公立) 62.8 32.6 4.6
6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和 を $2(3n+1)+1$ と 表した式から、連続 する二つの3の倍 数の和がどんな数 であるかを説明す る	式の意味を読み取 り、成り立つ事柄を 見だし、数学的な 表現を用いて説明 することができるか どうかをみる	2(1) イ(イ)					○		○		富山市 29.8 45.7 24.5 全国(公立) 25.7 49.4 24.9
6(3)	連続する三つの3 の倍数の和が、9の 倍数になることの 説明を完成する	目的に応じて式を 変形したり、その意 味を読み取りたりし て、事柄が成り立つ 理由を説明するこ とができるかど うかをみる	2(1) イ(イ)					○		○		富山市 47.7 30.4 21.9 全国(公立) 45.2 34.6 20.2
7(1)	Aの手元のカードが 3枚とも「グー」、B の手元のカードが3 枚とも「チョキ」で じゃんけんカード ゲームの1回目を 行うとき、1回目にA が勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の 確率について理解 しているかどうかを みる			2(2) ア(ア)			○		○		富山市 78.9 18.5 2.6 全国(公立) 77.4 19.4 3.2

【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	記述式	
												正答率 誤答率 無解答率
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を簡単に説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(2) イ(イ)	○				○	富山市 58.0 39.3 2.7 全国(公立) 55.9 41.9 2.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる			1(1) ア(ア)		○			○		富山市 73.6 23.8 2.6 全国(公立) 71.9 25.8 2.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1(1) イ(イ)		○				○	富山市 37.6 25.9 36.5 全国(公立) 38.0 27.0 35.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることを証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる			2(2) ア(イ)		○			○		富山市 63.9 35.2 0.9 全国(公立) 58.5 40.4 1.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる			2(2) イ(ア)		○			○		富山市 41.6 50.0 8.4 全国(公立) 36.3 56.5 7.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			2(2) イ(イ)		○			○		富山市 35.6 32.8 31.6 全国(公立) 33.2 35.3 31.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 理科】※「全日程に共通する問題」

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
												正答率 誤答率 無解答率
1(1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			富山市 53.8 46.0 0.2 全国(公立) 51.9 47.9 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1(2)	「理科の実験では、なぜ水遣水ではなく精製水を使うのか？」という疑問を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	(2) (7) ②			○				○		富山市 53.1 41.1 5.8 全国(公立) 46.2 45.8 8.0 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1(3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	地層のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を駆使し、地層を構成する岩石の大きさや層の厚さなどに着目して分析して解釈できるかどうかをみる			(2) (7) ②	○			○			富山市 36.7 62.9 0.4 全国(公立) 36.2 63.2 0.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1(4)	生物1から生物4までの動物を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(3) (7) ②		○			○			富山市 30.7 69.2 0.1 全国(公立) 29.7 70.1 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1(5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ④			○				○		富山市 49.7 43.1 7.2 全国(公立) 44.9 46.6 8.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
1(6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から得た新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) ②			○				○		富山市 83.5 8.9 7.6 全国(公立) 79.4 10.7 9.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【中学校 理科】※「実施日により異なる問題」

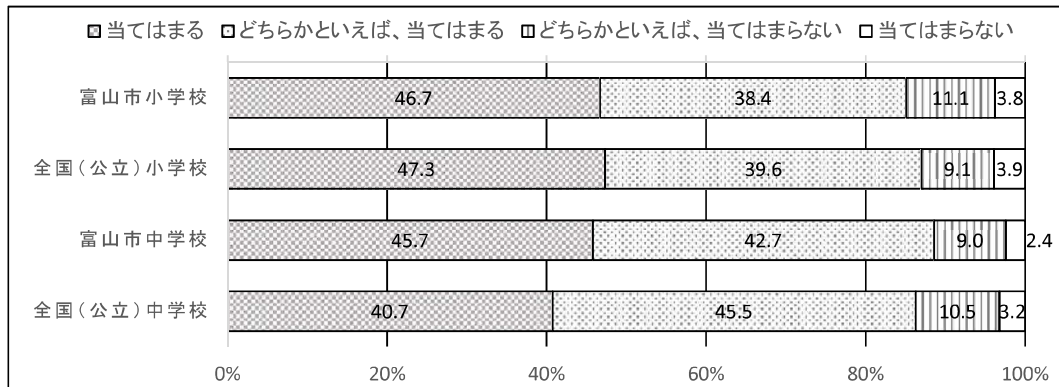
2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、自らに関する知識及び技能を活用して変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) ②			○				○		富山市 16.3 81.5 2.2 全国(公立) 14.0 84.1 1.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2(2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいのか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストーリーの太さと言の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ②			○			○			富山市 95.9 4.1 0.0 全国(公立) 94.6 5.3 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			富山市 33.8 66.0 0.2 全国(公立) 34.9 64.9 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3(2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がっている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がっている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ④			○			○			富山市 85.5 14.3 0.2 全国(公立) 85.2 14.7 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の大気圧の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を駆使して、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) ②			○			○			富山市 54.6 45.4 0.0 全国(公立) 50.4 49.5 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
4(2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ①			○			○			富山市 95.2 4.8 0.0 全国(公立) 92.8 7.1 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
5(1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) ②			○			○			富山市 93.3 6.6 0.1 全国(公立) 93.0 6.9 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (1) ②				○			○		富山市 42.9 52.8 4.3 全国(公立) 35.6 59.8 4.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
6(1)	牧野富太郎の「ノジキク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ②			○			○			富山市 70.0 29.7 0.3 全国(公立) 65.9 33.9 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (1) ②				○		○			富山市 42.8 57.0 0.2 全国(公立) 41.9 58.0 0.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同一構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			富山市 42.7 57.3 0.0 全国(公立) 34.8 65.0 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
7(2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ②	(3) (7) ②		○			○			富山市 61.8 38.2 0.0 全国(公立) 51.6 48.2 0.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる	(2) (1) ②			○			○			富山市 44.7 51.8 3.5 全国(公立) 42.2 54.6 3.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8(2)	Aさんの考えを肯定するためにボーリング地点③の結果がどのようなものならばよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりや傾斜を表現できるかどうかをみる	(2) (1) ②			○			○			富山市 17.4 81.8 0.8 全国(公立) 18.1 80.8 1.1 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (7) ②			○			○			富山市 32.6 67.4 0.0 全国(公立) 31.8 67.9 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9(2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ②			○			○			富山市 57.7 42.3 0.0 全国(公立) 58.1 41.6 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%

4 児童生徒質問調査（★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問）

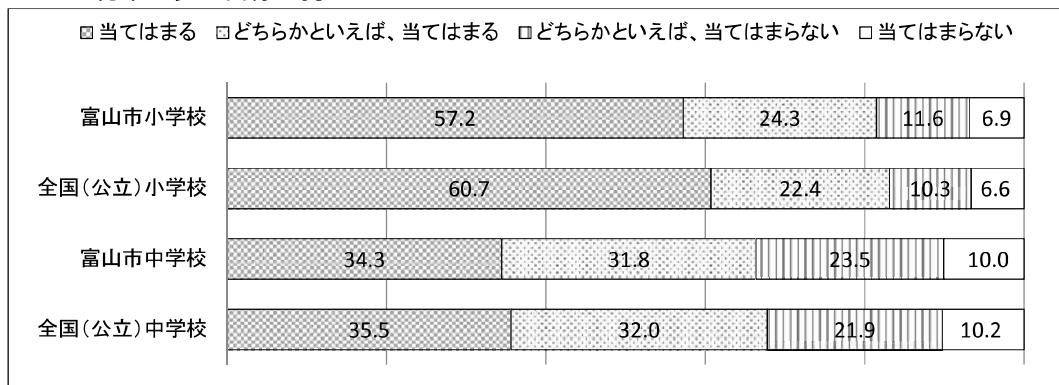
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思う。



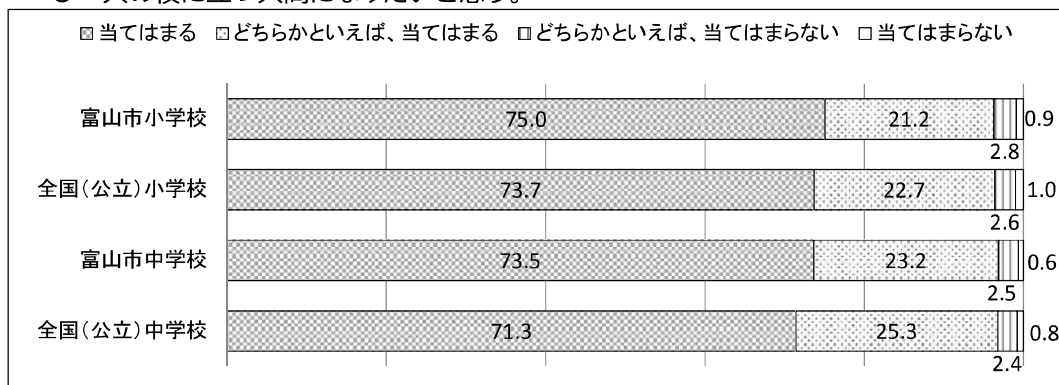
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

2 将来の夢や目標を持っている。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

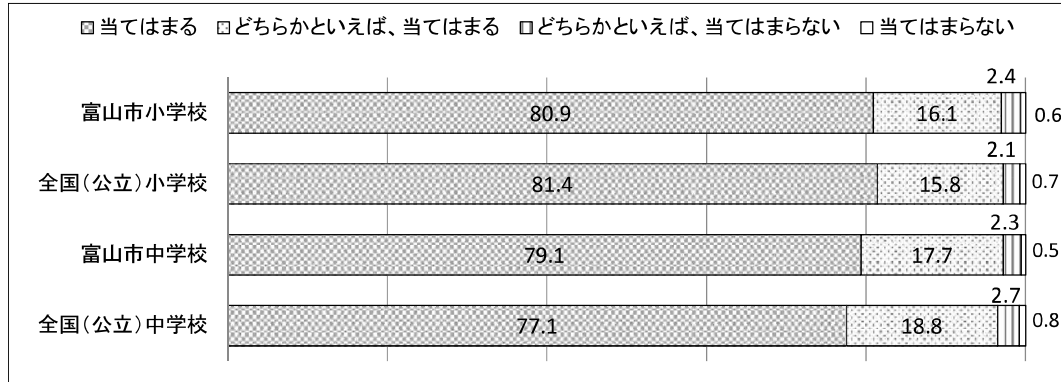
3 人の役に立つ人間になりたいと思う。



※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

【規範意識】

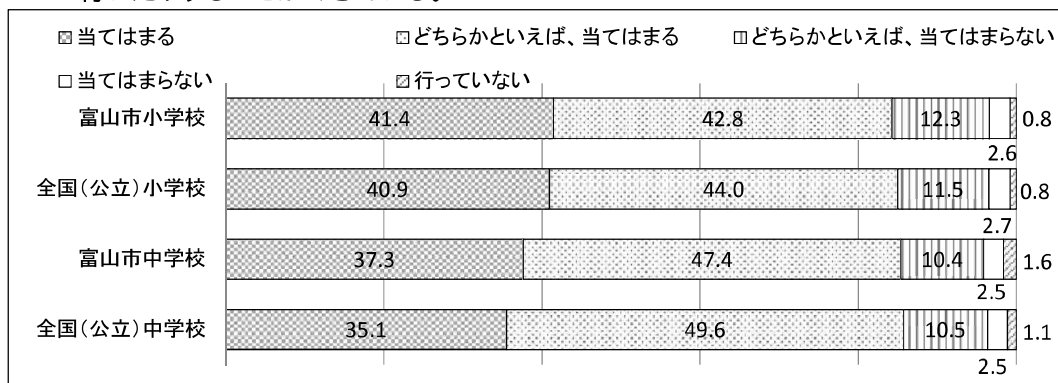
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

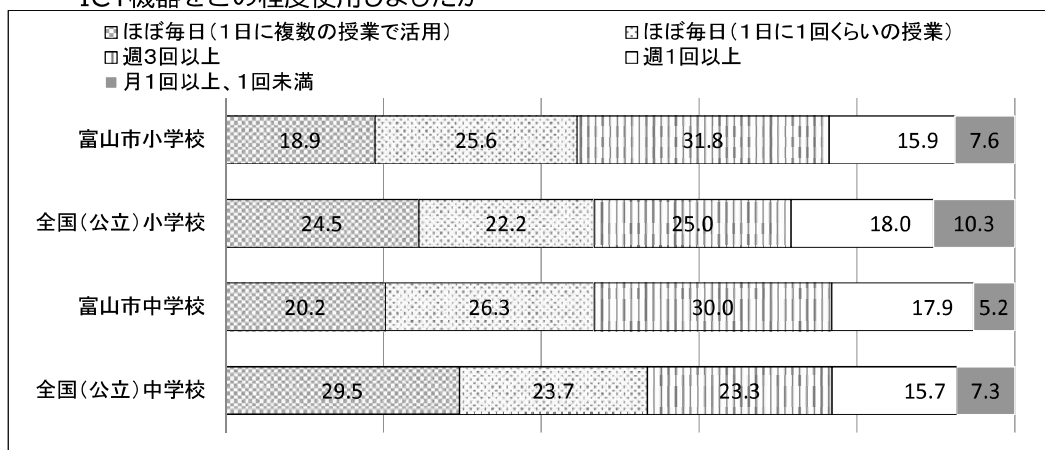
【授業での活動】

5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。



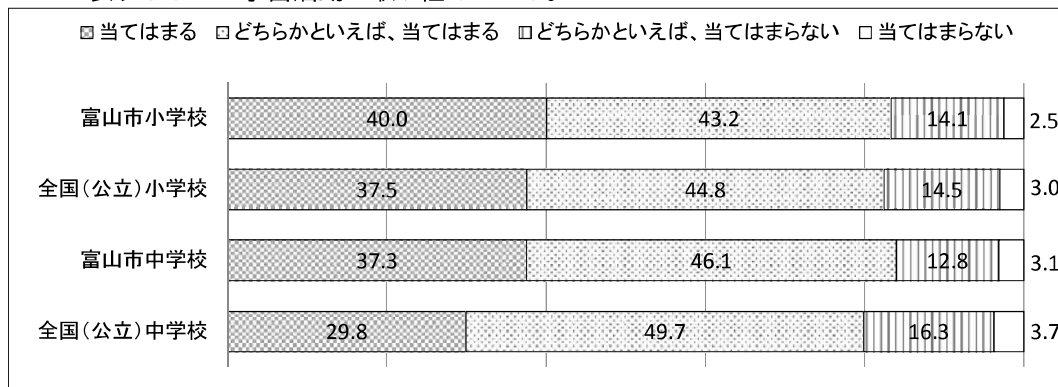
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」「どちらかといえば思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

6 小学校5年生(中学生は1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか



※ 「小学校5年生(中学生は1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している」児童の割合は全国よりやや高く、生徒の割合は全国と同じである。

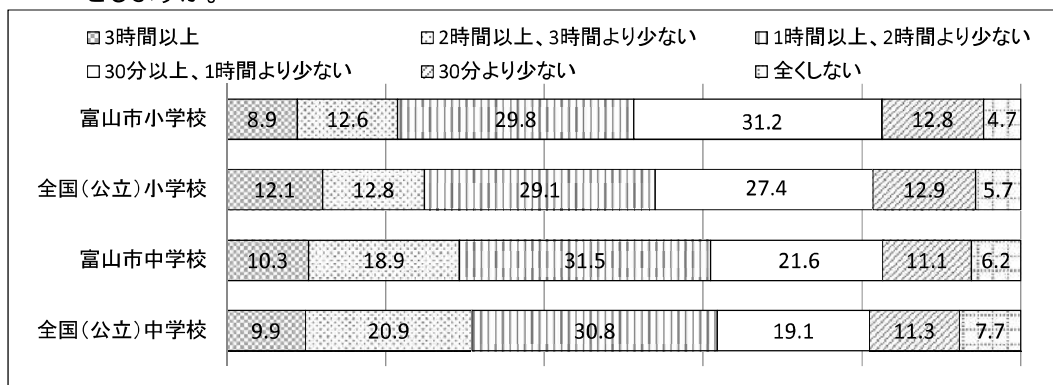
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国とほぼ同じであり、生徒の割合はやや高い。

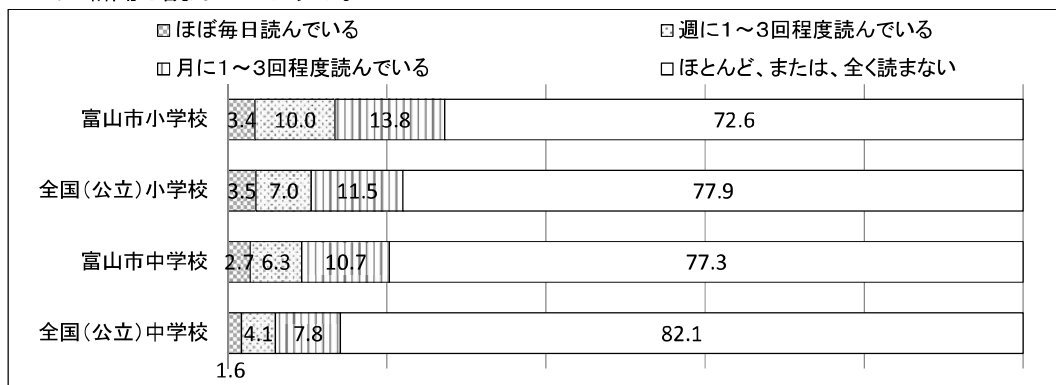
【家庭学習】

8 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



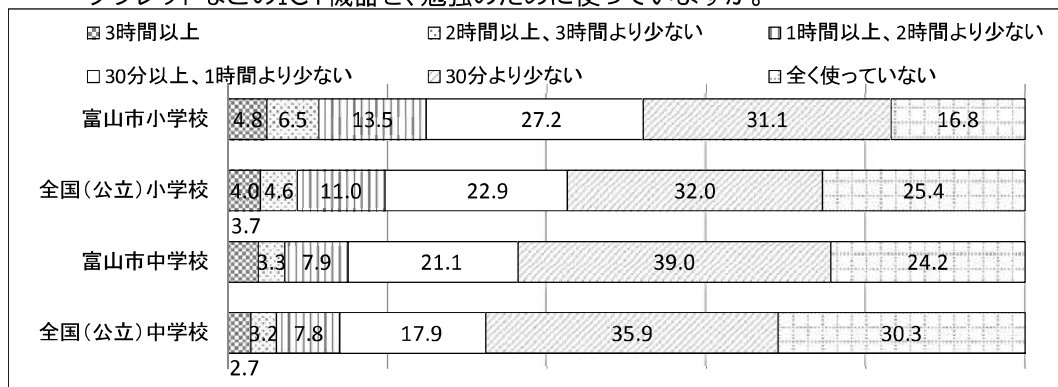
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強をしている」児童の割合は全国より低く、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

9 新聞を読んでいますか。



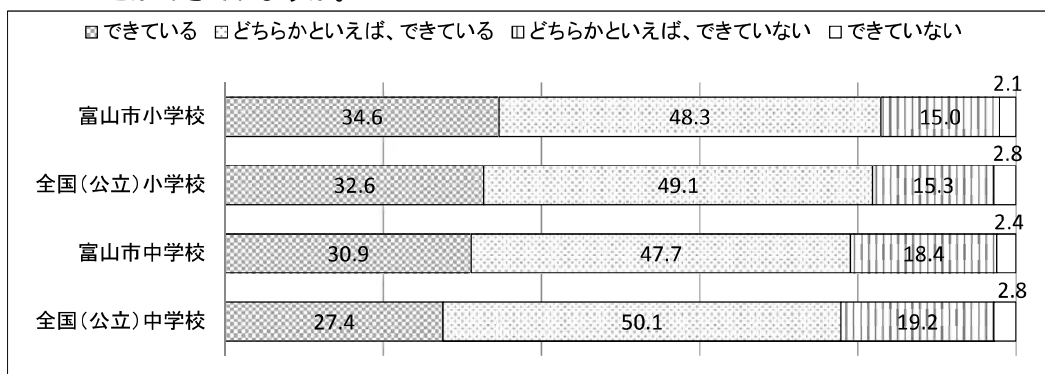
※ 「新聞を週に1～3回程度以上読んでいる」児童生徒の割合は全国よりやや高い。

10 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。



※ 「普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている」児童の割合は全国より高く、生徒の割合は全国よりやや高い。

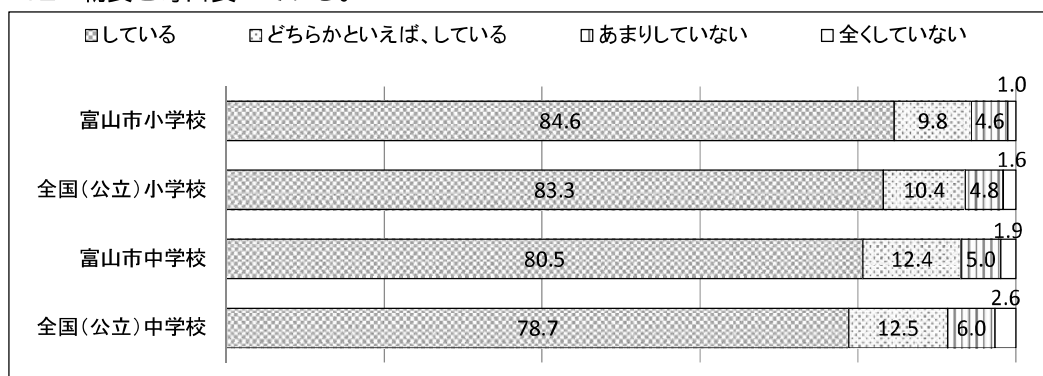
11 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



※ 「自分で学び方を考え、工夫することができている」「どちらかといえば、できている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

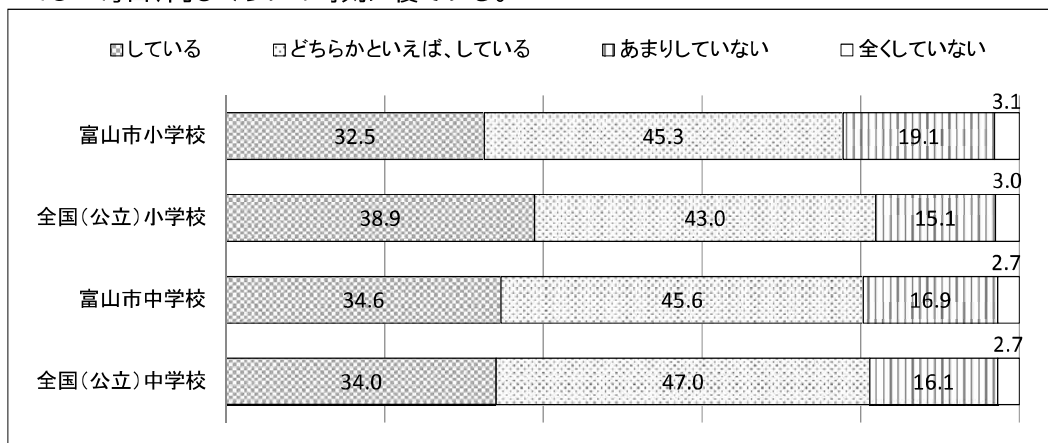
【家庭での生活】

12 朝食を毎日食べている。



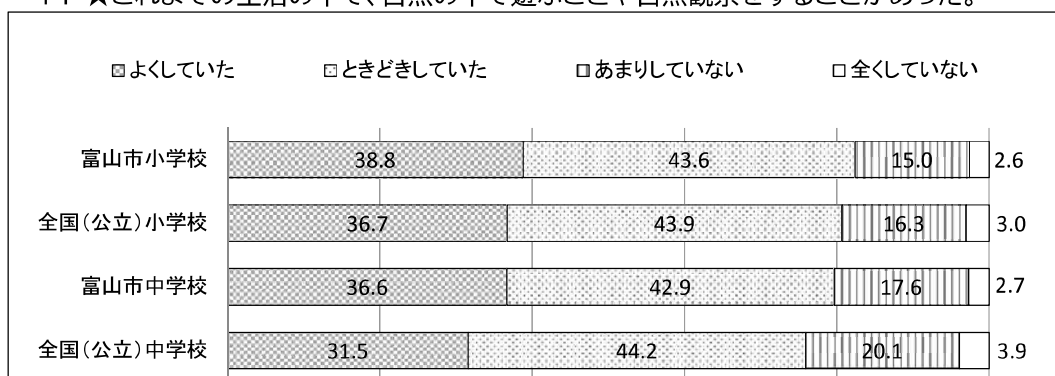
※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



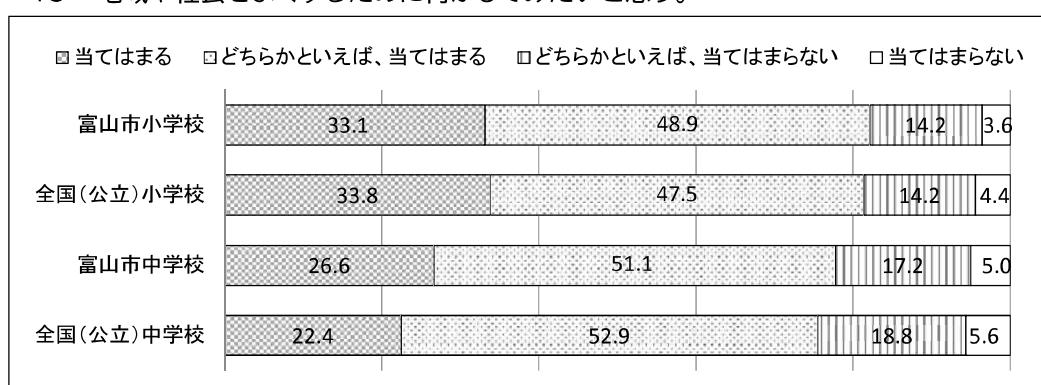
※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

14 ★これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった。



※ 「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることをよくしていた」「ときどきしていた」児童の割合は全国とほぼ同じであり、生徒の割合は全国よりやや高い。

15 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

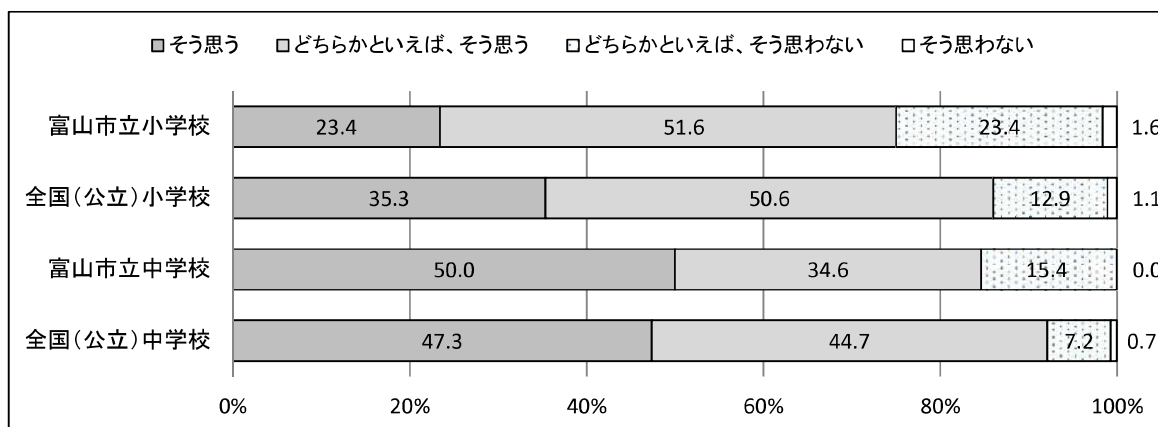


※ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

5 学校質問調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)
※ その他・無回答は、データに含んでいない。

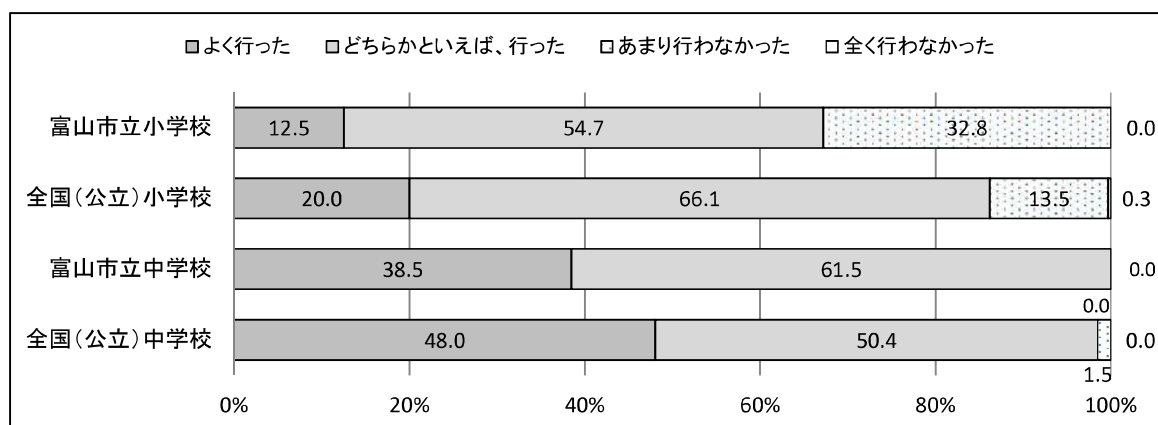
【児童・生徒指導等】

1 授業中の私語が少なく、落ち着いている



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

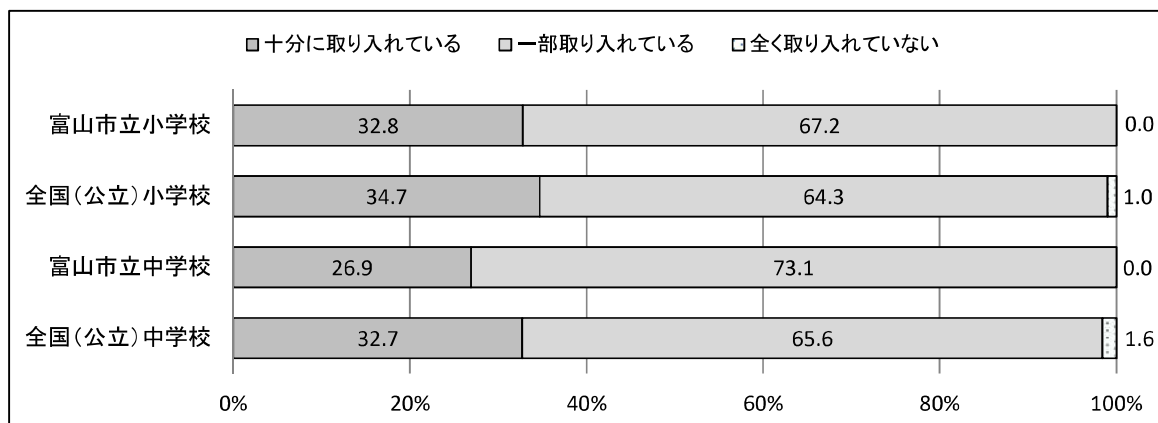
2 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

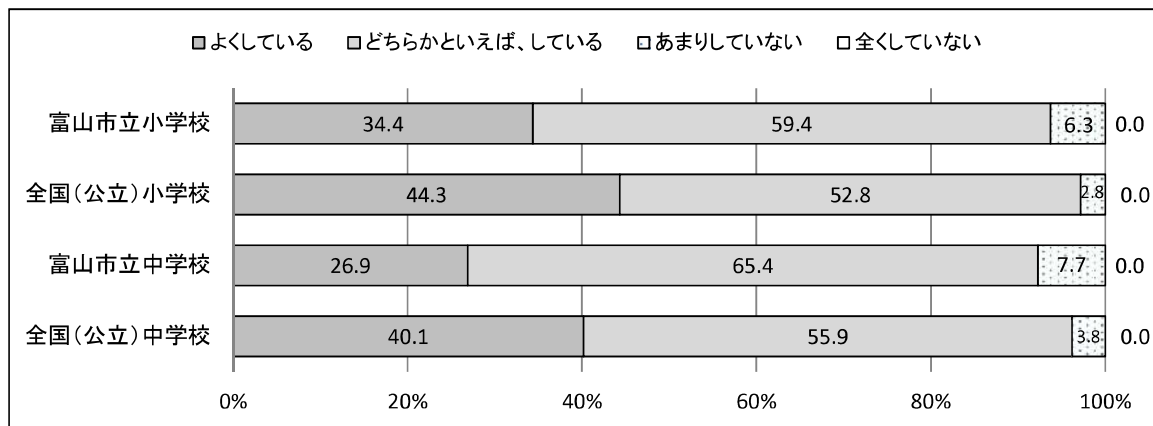
【学校運営に関する状況】

3 ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れている



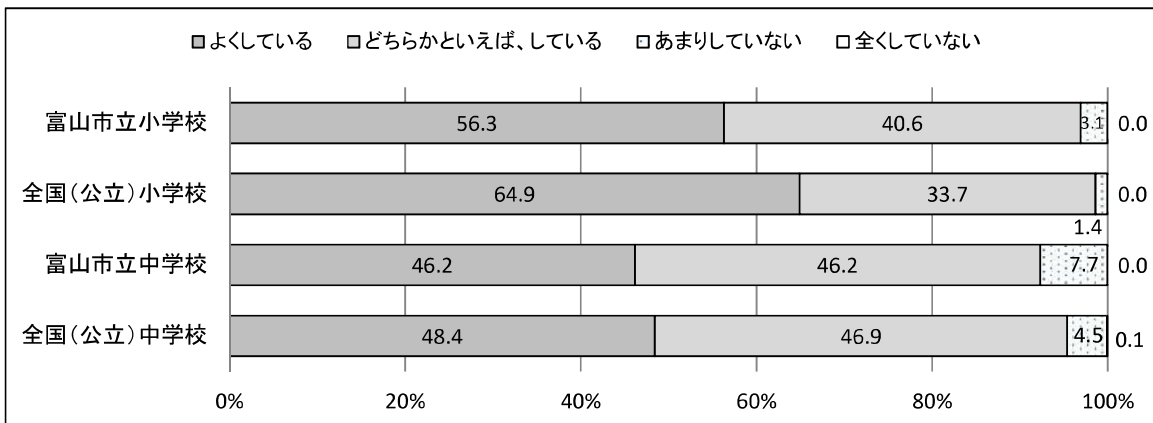
※ 「十分に取り入れている」「一部取り入れている」学校の割合は、全国と比べて、小・中学校とともにほぼ同じである。

4 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小・中学校ともにやや低い。

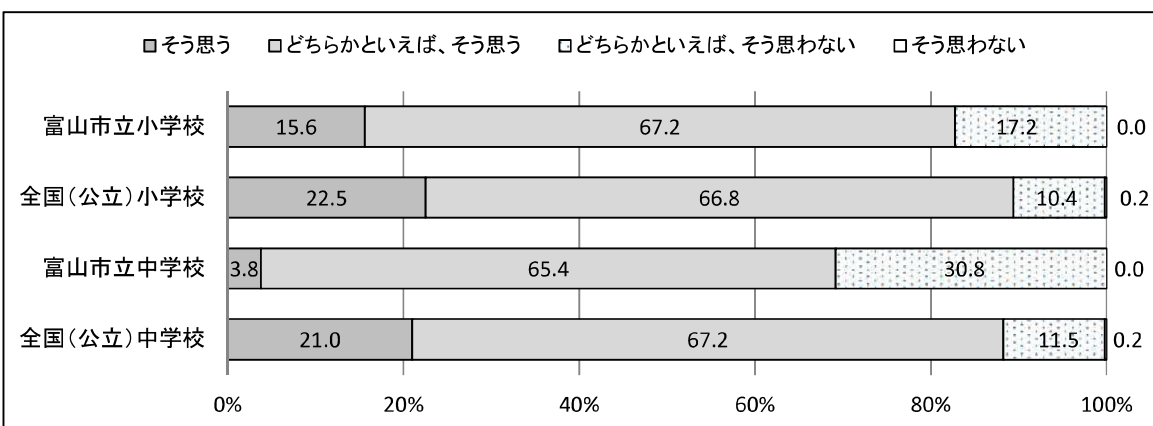
5 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校はやや低い。

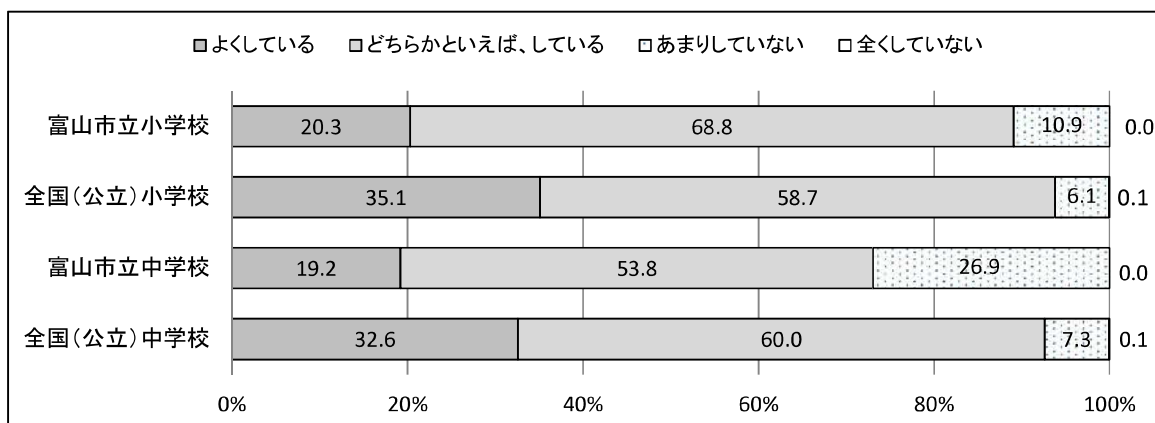
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

6 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる



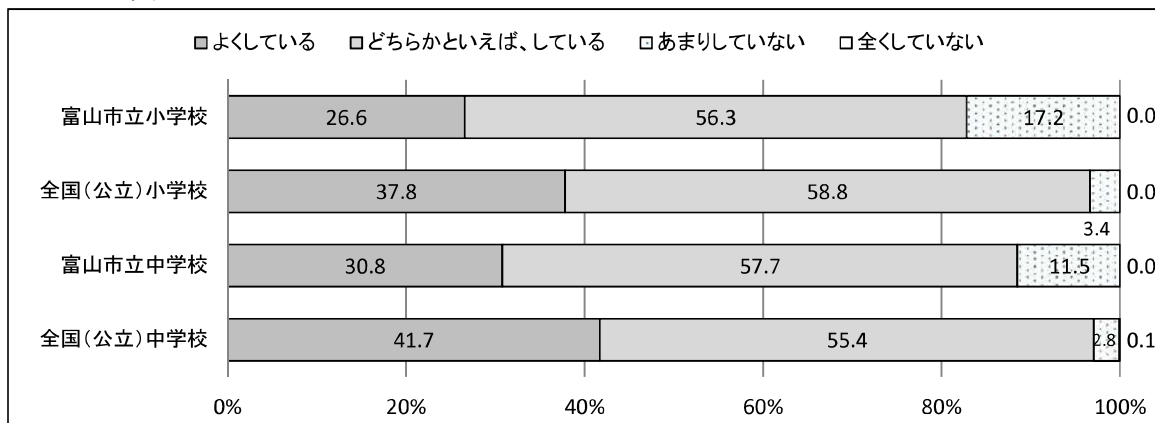
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小学校は低く、中学校はかなり低い。

- 7 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校はやや低く、中学校はかなり低い。

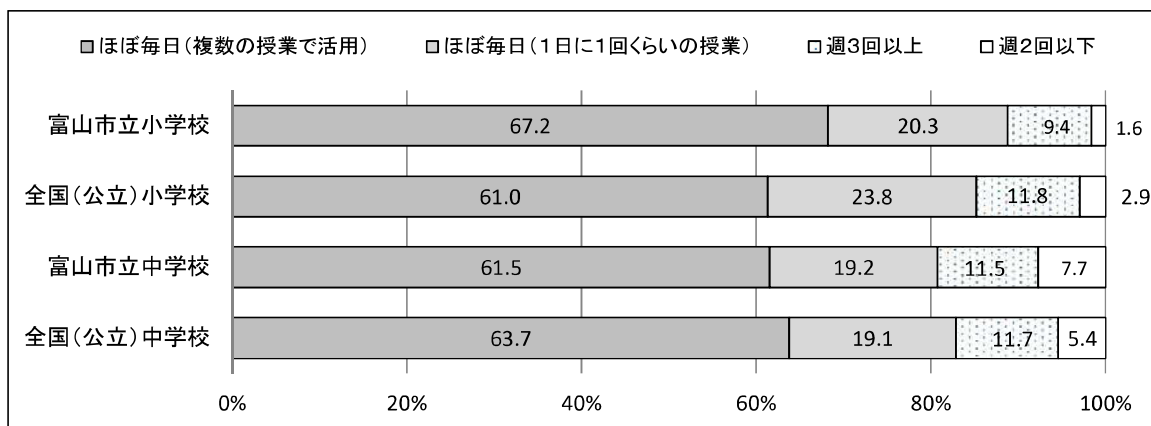
- 8 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

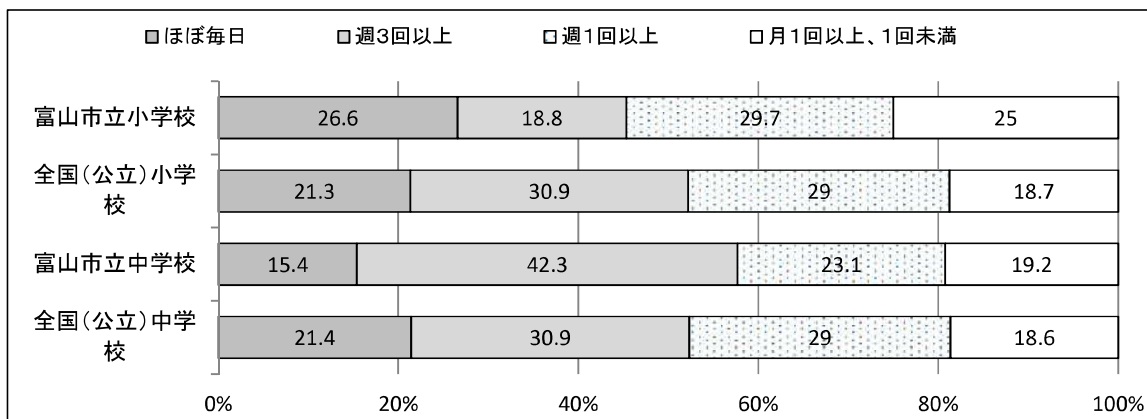
【ICTを活用した学習状況】

- 9 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」活用した学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校はほぼ同じである。

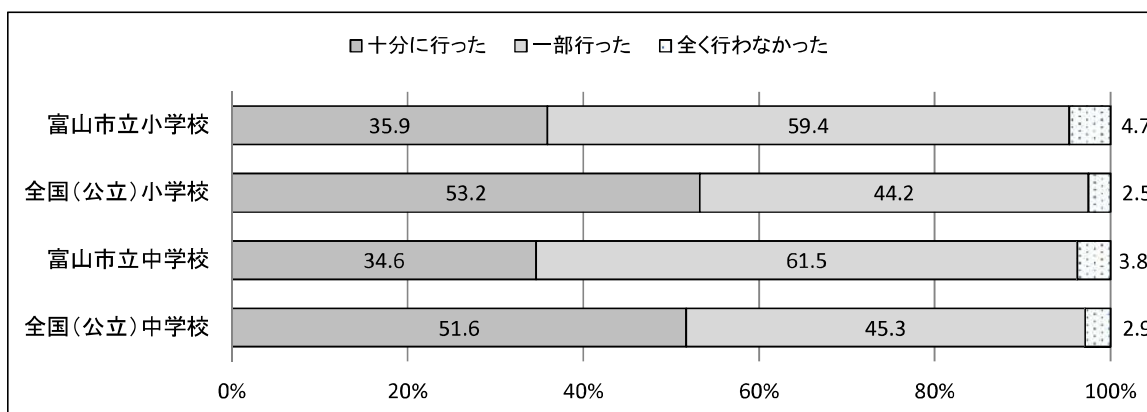
10 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用したか



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」活用した学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校は高い。

【特別支援教育】

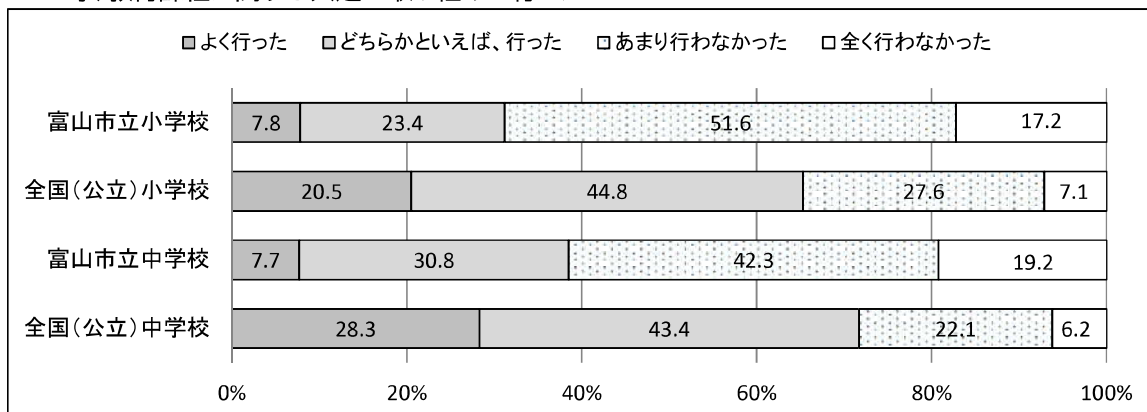
11 ◎前年度までに、障害のある児童生徒を念頭に置いた指導上の工夫を行った



※ 「十分に行った」「一部行った」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともにほぼ同じである。

【小学校教育と中学校教育の連携】

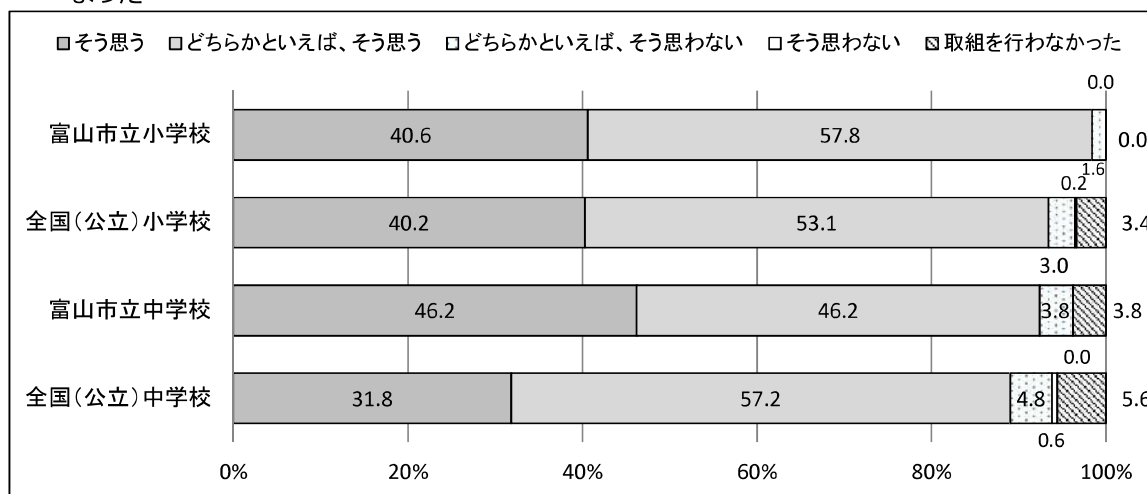
12 前年度までに、近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともにかなり低い。

【家庭や地域との連携等】

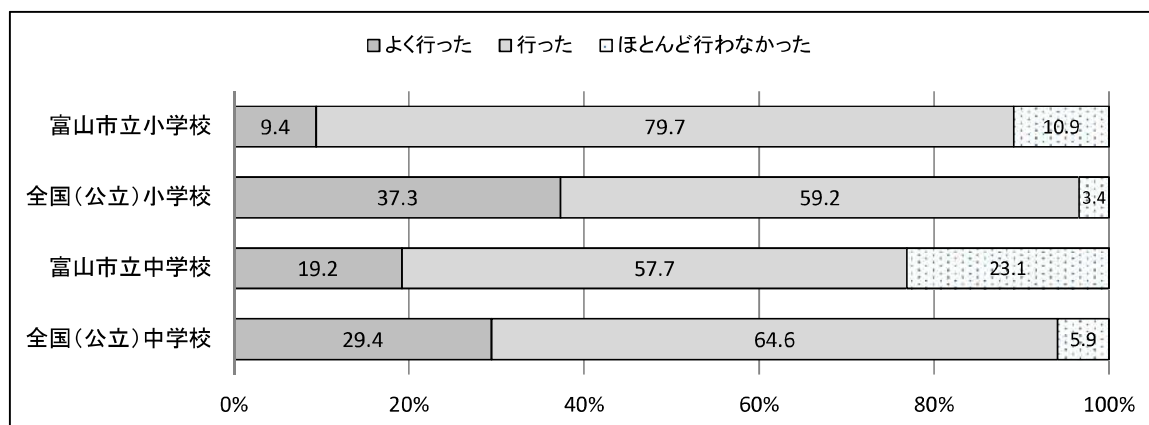
13 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は高く、中学校はやや高い。

【調査結果の活用】

14 令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



※ 「よく行った」「行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はかなり低い。

〈MEMO〉